

令和 3 年 度

小・中学校における 租税教育実践報告

仙台南地区租税教育推進協議会



発刊にあたって

仙台南地区租税教育推進協議会長

山元町教育委員会

教育長 菊 池 卓 郎

皆様には、日頃から、仙台南地区租税教育推進協議会に対しまして、深い御理解と御協力を賜っておりますことに厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度の座談会は開催を見送らせていただきましたが、研究発表会は感染症対策を徹底して開催することができ、2年ぶりに実践報告書発刊の運びとなりました。

本協議会は、昭和62年の設立以来、税務及び教育関係者が協力して、児童・生徒並びに社会人に対する租税教育を推進し、納税意識の高揚を目指して連絡協調を図ることを目的に、事業を推進してまいりました。

歴史ある「租税教育研究発表会」開催への関係各位の御高配に対し、深く感謝申し上げますとともに、長引くコロナ禍にありながら、租税教育に取り組んでいただいた学校及び教職員の皆様に心から敬意を表する次第です。

租税教育は、次代を担う児童・生徒が、税を通じて国や社会の仕組みを知り、社会を支える租税の意義・役割を正しく理解して、将来、納税者として社会に貢献する意識を育む大事な教育ですが、学校においては取り立てて行わなければならない、授業時数の確保やねらいに迫る手だてなど工夫が必要になります。

今年度は、名取市立増田西小学校、岩沼市立岩沼北中学校、亘理町立逢隈小学校、山元町立坂元小学校の4校が租税教育に取り組み、発表会において、担当した先生方から指導に当たって工夫したことや子供たちの様子、成果などが紹介されました。

特に、指導の成果として、どの学校からも児童・生徒の税に対する考えに大きな変化が見られたこと、税金の使われ方に対する関心が高まったことが報告され、改めて実践の意義を確認したところです。

各校の先生方には、お忙しい中、租税教育の実践に加え、研究発表のための資料作成や準備に注力し、すばらしい発表を行っていただいたことに感謝申し上げます。この実践報告書を通して租税教育の輪がさらに広がり、子供たちが起点となって租税の意義・役割が正しく周知されていくことを期待いたします。

結びに、本報告書発刊に御尽力いただきました仙台南税務署の皆様にも心から感謝申し上げますとともに、関係各位の今後ますますの御健勝と御活躍を祈念し挨拶いたします。

令和4年3月

目 次

1	仙台南地区租税教育推進協議会のあゆみ	1
2	令和3年度 租税教育推進協議会の主な活動状況	3
3	令和3年度 租税教育研究発表要項（順不同・敬称略）	
(1)	「将来積極的に社会に参画していく納税者を育む指導の工夫」	9
	～段階的に継続して育むカリキュラムを通して～	
	名取市立増田西小学校 齋藤幸恵 教諭	
(2)	「児童が税に関する興味・関心を高めるための指導の工夫」	27
	～児童自らが課題を設定し、調べる活動を通して～	
	亘理町立逢隈小学校 鈴木康史 教諭	
(3)	「租税についての関心を高め、税金の必要性を実感する児童の育成」	35
	～税に関する身近な問いについて調べ、解決する学習を通して～	
	山元町立坂元小学校 鈴木晋也 教諭	
(4)	「租税の意義や役割を正しく理解し、納税者として社会や国の在り方などを主体的に 考えることができる生徒の育成」	49
	～身近な地域の調べ学習を通して～	
	岩沼市立岩沼北中学校 古川明子 教諭	
(参考資料)	租税教育実践発表一覧	59
	令和3年度 仙台南地区租税教育推進協議会 役員名簿	67

1 仙台南地区租税教育推進協議会のあゆみ

(1) 設 立

この会は、仙台南地区の税務及び教育関係者が協力して、児童・生徒並びに社会人に対する租税教育を推進し、納税道義の高揚に必要な事項について協議し、また、連絡協調を図ることを目的としている。

当協議会は、昭和62年3月25日の設立準備委員会を経て、次の機関構成をもって、昭和62年5月25日に設立されている。

(2) 構成機関

構 成 機 関 名	
教 育 関 係 機 関	税 務 関 係 機 関
宮城県教育庁仙台教育事務所 名取市教育委員会 岩沼市教育委員会 亘理町教育委員会 山元町教育委員会 各地区校長会	仙台南税務関係団体協議会 宮城県仙台南県税事務所 名取市役所 岩沼市役所 亘理町役場 山元町役場 仙台南税務署

(3) 事業内容

- イ 租税教育の計画策定
- ロ 児童・生徒の租税教育に関する座談会及び研究発表会の開催
- ハ 租税教室の開催
- ニ 税に関する作品募集の支援
- ホ 小・中学校における租税教育実践報告書の作成
- ヘ 租税教育用教材の提供
- ト 税を考える週間行事への協力

(4) 歴代会長

初代	昭和62年5月25日	～	平成元年6月13日	岩沼市教育委員会	教育長	遠藤幸四郎
2代	平成元年6月13日	～	平成5年6月1日	名取市教育委員会	教育長	佐々木健
3代	平成5年6月1日	～	平成8年10月15日	山元町教育委員会	教育長	菅野丈治
4代	平成8年10月15日	～	平成13年6月8日	亶理町教育委員会	教育長	三品堯明
5代	平成13年6月8日	～	平成14年12月31日	岩沼市教育委員会	教育長	砂金勲
6代	平成15年1月1日	～	平成15年6月10日	岩沼市教育委員会	教育長	影山一郎
7代	平成15年6月10日	～	平成16年9月30日	名取市教育委員会	教育長	太田洋一
8代	平成16年10月1日	～	平成17年6月2日	名取市教育委員会	教育長	阿部哲男
9代	平成17年6月2日	～	平成19年3月31日	山元町教育委員会	教育長	佐々木陽一郎
10代	平成19年5月10日	～	平成19年6月1日	山元町教育委員会	教育長	横山俊二
11代	平成19年6月1日	～	平成21年6月1日	亶理町教育委員会	教育長	鈴木光範
12代	平成21年6月1日	～	平成23年6月24日	岩沼市教育委員会	教育長	影山一郎
13代	平成23年6月24日	～	平成25年6月20日	名取市教育委員会	教育長	丸山春夫
14代	平成25年6月20日	～	平成27年6月26日	山元町教育委員会	教育長	森憲一
15代	平成27年6月26日	～	平成29年6月28日	亶理町教育委員会	教育長	岩城敏夫
16代	平成29年6月28日	～	令和元年7月2日	岩沼市教育委員会	教育長	百井崇
17代	令和元年7月2日	～	令和3年7月16日	名取市教育委員会	教育長	瀧澤信雄
18代	令和3年7月16日	～		山元町教育委員会	教育長	菊池卓郎

2 令和3年度 租税教育推進協議会の主な活動状況

○ 児童・生徒の租税教育に関する研究発表会

(内容) 研究発表指定校の教員が、租税教育に関する研究内容を発表した。

年 月 日	令和3年11月15日(月)			
場 所	亶理町中央公民館			
発 表 者	名取市立 増田西小学校 岩沼市立 岩沼北中学校 亶理町立 逢隈小学校 山元町立 坂元小学校	教 諭 教 諭 教 諭 教 諭	齋 藤 幸 恵 古 川 明 子 鈴 木 康 史 鈴 木 晋 也	

租税教育に関する研究発表会

開催日：令和3年11月15日(月)
開催場所：亘理町中央公民館



会長あいさつ：山元町教育委員会
菊池 卓郎 教育長



祝辞：亘理町
三戸部 貞雄 副町長



発表：名取市立 増田西小学校
齋藤 幸恵 教諭



発表：亘理町立 逢隈小学校
鈴木 康史 教諭



発表：山元町立 坂元小学校
鈴木 晋也 教諭



発表：岩沼市立 岩沼北中学校
古川 明子 教諭



講評: 仙台教育事務所
渥美 寿彦 指導班副参事(指導主事)



感謝状贈呈



記念品贈呈: 仙台南間税会



研究発表会 会場

令和3年度 租税教育に関する研究発表者

開催日 令和3年11月15日(月)

開催場所 亶理町中央公民館



名取市立 増田西小学校

教諭 齋藤 幸恵

「将来積極的に社会に参画していく納税者を育む指導の工夫」

～段階的に継続して育むカリキュラムを通して～



岩沼市立 岩沼北中学校

教諭 古川 明子

「租税の意義や役割を正しく理解し、納税者として社会や国の在り方などを主体的に考えることができる生徒の育成」

～身近な地域の調べ学習を通して～



亶理町立 逢隈小学校

教諭 鈴木 康史

「児童が税に関する興味・関心を高めるための指導の工夫」

～児童自らが課題を設定し、調べる活動を通して～



山元町立 坂元小学校

教諭 鈴木 晋也

「租税についての関心を高め、税金の必要性を実感する児童の育成」

～税に関する身近な問いについて調べ、解決する学習を通して～

令和3年度 租税教育に関する研究発表要項

名取市立増田西小学校

教諭 齋藤 幸恵

1 研究主題

将来積極的に社会に参画していく納税者を育む指導の工夫
～段階的に継続して育むカリキュラムを通して～

2 主題設定の理由

消費税増税、脱税問題などの税金に関わるニュースがメディアで取り上げられることが多い。そのため、多くの児童は「税金」という言葉を知っているが、税金とは何か、税金の使い道など正しい知識を身に付けている児童はほとんどいない。さらに、「消費税が10%になる」「お金がとられる」とマイナスイメージをもっている児童も少なくない。

本校は2019年にエアコンが各教室に設置されたが、その費用にも税金が使われている。児童の身近で税金は使われているものの、そのことには気付いていない。

そこで、小学校段階から、税金に関する学習を取り入れ、税金の大切さを理解させることが必要である。自分たちの学校や街と税金との関わりを学習することによって、税金の役割やその必要性をより身近なものとして感じられるようにしたい。また、その活動を通して税金は「とられるもの」ではなく、私たちの安心・安全な暮らしを支えるために「必要なもの」という発想の転換を行い、積極的に社会に参画していく納税者を育成することにつなげていきたい。

また、租税教育の現状として、時数の確保と継続性が課題に挙げられる。そこで、小学校6年生だけで行うのではなく、小学校3年生から段階的に少しずつ租税教育を行っていきたい。段階的に無理なく行うことができるカリキュラムを作ること、継続的に指導を行うことができると考え、本主題を設定した。

3 研究目標

税金に関する授業や租税教室を通して、税に関する正しい知識を身に付け、望ましい納税者意識を育成できる指導法を探る。

4 研究の方法

- (1) 児童の税金に関する意識調査を行い、実態を把握する。
- (2) 租税教室を開催し、税金の意義や役割について理解を深めさせる。
- (3) 名取市税務課の資料をもとに、学校内や街と税金の関わりについて知り、税金の必要性について考えさせる。
- (4) 税金について学習したことをもとに税金の大切さを「絵はがき」にまとめ、発表させる。
- (5) 事後調査を行い、税金に関する意識の変容をみる。
- (6) 小学校3年生から6年生までに、段階的に税金の学習に取り組むことができるカリキュラムを検討する。

5 研究の計画

学年	単元	内容
5 年	8 月	実態調査
	総合的な学習の時間 9 月	実践授業①税金って何だろう ②税金の使い道の決め方 ③租税教室 (講師 木村経営管理会計 税理士 木村拓也氏) ④昔の税・外国の税 ⑤絵はがきを書こう 「税に関する絵はがきコンクール」応募
	10 月	事後調査 研究のまとめ
3~6 年	11 月	カリキュラム検討
	令和2年11月 (6 学年時)	研究発表会

6 研究の概要

(1) 児童の実態：事前調査（令和元年度5年2組 男16名 女18名 計34名）

実態調査の結果は次の通りである。（令和元年8月26日実施）

- ①税金について知っていることはありますか。（複数回答あり）
- ・知っている（2名）
(納めると公園などができる1名, 税金がなかったら救急車をよぶとお金がかかる1名)
 - ・言葉は聞いたことがあるが意味は知らない（31名）
 - ・言葉も知らない（1名）
- ②税金は誰が納めるものでしょうか。
- ・全国民（大人も子どもも）（7名）
 - ・大人だけ（6名）
 - ・子どもだけ（0名）
 - ・納めたい人だけ（0名）
 - ・分からない（21名）
- ③税金にはどのような種類があるでしょうか。
- ・消費税（4名）・たばこ税（1名）・国税（1名）・だつ税（1名）・税金ぜい（1名）
- ④税金はどのようなことに使われていると思いますか。
- ・国のために使われている（1名） ・被災したところに使われている（1名）
 - ・病院などの公共施設を作るのに使われる（1名） ・ほしい人にあげる（1名）

⑤税金は必要だと思いますか。

・必要（2名）

㊦平和にくらすため1名，ユーチューブで必要と言っていたから1名

・不要（0名）

・分からない（32名）

【考察】

児童の多くは「税金」という言葉は聞いたことがあっても、税金の意味を正しく認識していない。そのため、税金の必要性についても「分からない」児童がほとんどだった。「知っている」と答えた児童においても、税金の種類に「だつ税」や「税金ぜい」と誤った認識をしている児童もいた。

まずは、「税金」とは何かを知ることから始め、なぜ必要なのか考えさせていく。

(2)学習計画（5時間扱い・総合的な学習の時間）

時	主な学習活動	・指導，支援のポイント	評価規準（方法）
1	税金とは何か，何に使われているのかを知る。	・税金がなくなったらどうなるかを考えさせ，税金とは何かを確認する。 ・税金の「とられるもの」というマイナスイメージから，私たちの生活に必要なものであるというプラスのイメージをもたせる。	【課】課題に対して自分なりの予想や見通しをもつことができる。
2	税金の使い道の決め方について知り，選挙の大切さを理解する。	・税金の使い道の決め方について教え，選挙の大切さにも触れる。 ・税金を使って街を作るゲームを通して，具体的なイメージを持たせる。 ・私たちが選んだ国会議員が決められているということは，間接的にだが，私たちが使い道を決めていることに気付かせる。	【他】友達と意見交換したり，一緒に考えたりしながら，税に関して考えを深めたり，多様な考えがあることに気付くことができる。
3	租税教室で，税金についてより詳しいことを知る。	・大きなお金が税金として動いていることを実感し，税金について考える大切さを知る。 ・実際にお金を見せることで，実感をともなって考えることができるようにする。	【他】税の専門家の方の話を聞いたり質問したりしながら，税についての考えを深めることができる。
4	日本の税の変化，外国の税について理解する。	・昔や外国の税と比較させ，税金について客観的に考えさせる。 ・他の税について知り，比較することで，税について自分の考えをもつことができるようにする。	【判・表】税金と自分の生活とのつながりに気付き，外国や日本の過去の税と比較しながら，今の日本の税について考えることができる。

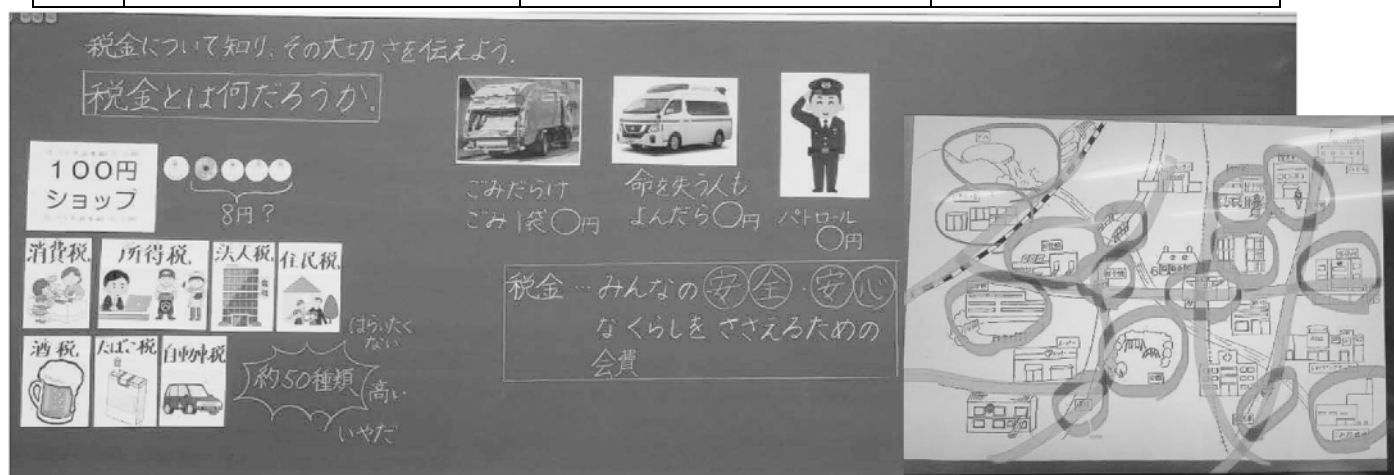
5	税金の必要性や大切さを呼びかける絵はがきを書く。	・学んできたことをもとに、税金とは、安全・安心な暮らしを支えるための会費であり、必要であることを他者にも呼びかけさせる。 ・絵はがきを掲示することで、1対1に留まらず、多くの人に呼びかけることができるようにする。	【判・表】伝える相手を意識して、税金の必要性を伝える絵はがきを描くことができる。
---	--------------------------	---	--

(3)実践の概要

【①税金って何だろう】

段階	主な学習活動	指導上の留意点	評価（方法）
導入 (5分)	1 本時の課題を把握する。 税金とは何だろうか。	・税金という言葉知らない児童もいるので、生活場面から導入を行い、より身近なものとして捉えさせる。 ・100円均一の店を行い代金108円の8円とは何かについて考えさせる。 ・消費税は税金の一種であることをおさえる。	【課】税金とは何に使われているのか自分の考えをもつことができる。 (発言)
展開 (32分)	2 税金の種類について知る。 3 税金の使い道について考える。 ① 教室の中で考える。 ② 街の中で考える。	・消費税、所得税、住民税、法人税、酒税、たばこ税、自動車税など約50種類の税があり、大人も子どもも税を納めていることを確認させる。 ・税金についてのイメージを話し合わせる。 ・教室の中を見渡して、税金が使われているものを見つけさせる。 ・税金が使われている物を見つけたら、✓印をつけ、学校では多くの物に税金が使われていることを視覚的に捉えさせる。 ・税金がなかったら、○○もないという視点で探させ、税金は必要なものであることをおさえる。 ・名取市の簡略した地図を提示し、税金は多くの場所・場面に使われていることを視覚的に捉えさせる。 ・税金がなくなったら、 ① ごみ収集 ② 救急車 ③ パトロールはどうなる 具体的場面についても考えさせる。	

		・考える際には、個人→ペア→グループで段階的に考えさせ、自分で考える時間を確保しながらも、考えることが難しい児童の助けにもなるようにする。	【他】友達と意見交換したり、一緒に考えたりしながら、税に関して考えを深めたり、多様な考えがあることに気付くことができる。（観察）
まとめ (8分)	4 本時の学習を振り返る。 5 次時への意欲を高める。	・税についてのイメージを学習計画表に振り返らせる。 【観点】 ① 税についてのイメージの変容 ② 本時の学習で学んだこと ・国と宮城県の予算総額を知らせ、その使い道を決めているのは誰かを問いかけ、次時へつなげる。	【判・表】税金はみんなの安全・安心なくらしを支えるために必要なものであることを理解し、自分の生活を振り返ることができる。 (ワークシート・発表)



税金とは具体的に何かを知ることで、初めは税金に対して「払いたくない。」「高い。」「嫌だ。」とマイナスのイメージをもつ児童がほとんどだった。しかし、税金が何に使われているのか、教室の中や自分達の住んでいる街の地図から見つけていくことで、私たちの生活に欠かせない物であることを実感したようであった。

☆児童感想

- ・勉強する前は、税金をとりすぎだと思いましたが、今ではみんなの安全・安心を守るために必要なんだなと思いました。
- ・税金は必要ないんじゃないかなと思ってたけど、税金がないと生活できないし、税金は大切なんだなと思いました。

【②税金の使い道の決め方】



税金の使い道の決め方について学んだ後、ゲームを通して実際の街作りを行った。その中で税金をどのように使うか話し合い、いくつかの街を提案させた。楽しんで活動するなかでも、どのような街を目指すのか、税金の使い道に興味・関心が高まったようであった。

さらに、どの街がいいのか選択させ、選挙の大切さについてまで、つなげることができた。

☆児童感想

- ・みんなのほしいものだけじゃ街は成り立たないんだなと思いました。大人になったら投票したいです。
- ・税金は、国民から受け取って使う物なので、使い道をしっかりと考えないとだめなんだと思いました。
- ・税金は話し合って使い道を決めるのが分かりました。ぼくも7年後に投票するので、もっと税金について詳しく知りたいと思いました。

【③租税教室】



ゲームを通して、税の集め方について様々な方法があることを学んだり、1億円のレプリカを見て、税金を大切に使うなくてはいけないと感じたりする貴重な機会になった。

☆児童感想

- ・同じ金額のお金を集めるのであっても、いろいろな集め方が分かりました。
- ・みんなが納得するお金の集め方は難しく、答えがないことが分かった。
- ・水道の水にも税金が使われていることが分かったので、無駄使いしないようにしたいです。

【④昔の税・外国の税】



「わたしたちのくらしと税金」を活用した実践。今と昔の税金、日本と外国との税金を比較しながら学習した。児童は、税の変容について学び、6年生の歴史の学習にもつながった。また、外国の税金との比較を行うことで、日本の税金について考えるきっかけとなった。

☆児童感想

- ・昔の税金がお米と知ってびっくりしました。昔から税金があるんだなと分かりました。
- ・私は、スウェーデンのように税金が高くても医療の保障がされているのがいいなと思いました。

【⑤絵はがきを書こう】

税金の学習のゴールとして「税金の大切さをみんなに伝えよう」ということで、税金の必要性や大切さを呼びかける「絵はがき」作りに取り組んだ。学習したことを振り返りながら、絵はがき作りに取り組むことができた。



☆児童感想

- ・税金がみんなの暮らしを助けていることを絵はがきで表せたので良かったです。家族みんなにはがきを見せて税金の大切さを伝えたいです。
- ・みんなに伝えたい気持ちを書くことができて良かったです。これからみんなに税金について知ってもらって、税金で明るい未来にしていきたいです。

(4)児童の実態：事後調査（令和元年度5年2組 男16名 女18名 計34名）

実態調査の結果は次の通りである。（令和2年1月8日実施）

①税金について知っていることはありますか。（複数回答あり）

- ・知っている（34名）
- ・言葉は聞いたことがあるが意味は知らない（0名）
- ・言葉も知らない（0名）

②税金は誰が納めるものでしょうか。

- ・全国民（大人も子どもも）（34名）
- ・大人だけ（0名）
- ・子どもだけ（0名）
- ・納めたい人だけ（0名）
- ・分からない（0名）

③税金にはどのような種類があるでしょうか。

- ・消費税(31名)・所得税(8名)・法人税(4名)・固定資産税(4名)
- ・たばこ税(2名)・酒税(2名)・住民税(1名)・自動車税(1名)・関税(1名)

④税金はどのようなことに使われていると思いますか。

- ・学校(12名)・学校の机やいす、黒板など(7名)・公園(7名)・道路(5名)・消防署(4名)
- ・警察署や警察官の給料(4名)・救急車(4名)・信号機(4名)・市役所(3名)
- ・教科書(2名)・ダム(2名)・ゴミ処理場やごみ処理のお金(2名)・図書館(1名)
- ・被災した土地の復興(1名)・みんなが使う物(1名)

⑤税金は必要だと思いますか。

- ・必要（34名）
- Ⓜ・生活に必要なものだから・国を豊かにしていくために必要・国民を守るために必要
- ・みんなのために使われるお金だから・被災した人を助けられなくなるから

- ・未来が明るくなるために必要・生活が不便になってしまうから
- ・学校に行くことができなくなるから・税金がないと街がゴミだらけになるから
- ・消防車が来ないと大変なことになるから・警察官がいないと困るから
- ・ないと困ることがたくさんあるから
- ・不要（０名）
- ・分からない（０名）

7 租税教育を盛り込んだカリキュラムの提案

【第３学年】

教科	月	単元名	小単元・内容・(時数)	税金との関わり
総合	6	にこにこ栽培	5 A D A Y に 参 加 す る 11／20 ・野菜や果物の摂取量を増やす 食育活動。	○スーパーマーケットで買い物を する際に、消費税を意識させる。
社会	4	わたしのまち み んなのまち	市の様子 6／12 ・学校や図書館などの公共施設 が充実していて、便利に生活で きることを押さえる。	○公共施設を作るために、国のお 金が使われていることを伝え る。
	1 1 1 2	くらしを守る	火事からくらしを守る 4／7 ・消防署へ行こう	○消防署の活動、消防車や救急車 などに税金が使われていること を押さえる。
	1		事故・事件からくらしを守る 4／9 ・警察の仕事	○警察官の活動に税金が使われて いることを押さえる。
	2	市のうつりかわり	市の様子と人々のくらしの うつりかわり 6／10 ・市の公共施設はいつでもでき たのでしょうか	○学校や図書館などの公共施設 は、昔から計画的に建設されて おり、税金を使って整備された 施設によって人々の生活も変わ ってきたことを押さえる。

【第４学年】

教科	月	単元名	小単元・内容	税金との関わり
社会	6	住みよいくらしを つくる	水はどこから 4・5／11 ・ダム・浄水場の働きについて	○みんなが安全な水を飲むことが できるためのダム・浄水場をつ くるために税金が使われている ことを押さえる。
	7		ごみしよりと利用 4・5／14 ・清掃工場ではごみをどのよう にしてもやしているのか	○清掃工場を作ったり、ごみを処 理したりするために多くの税金 が使われていることを押さえ る。

	9		地震からくらしを守る 4・5／9 ・市の地震対策について調べよう	○津波避難ビルや避難表示などの地震に備えた設備，震災復興に税金が使われていることを押さえる。
--	---	--	--	--

【第5学年】

教科	月	単元名	小単元 ・ 内容	税金との関わり
理科	1 0	台風と天気の変化	台風による災害に対する備えについて 3／4	○災害への対策に税金が用いられていることを押さえる。
	1 0	流れる水のはたらき	川の水による災害や災害に対する備えについて 8／12	○災害への対策に税金が用いられていることを押さえる。
社会	1 2	わたしたちの生活と環境	自然災害を防ぐ 3・4・5／5 ・津波災害への取り組み ・風災害への取り組み ・火山の噴火や大雪への取り組み	○自然災害から国土を保全し国民生活を守るために，国や県などが様々な対策や事業を行う際に税金が用いられていることを押さえる。
家庭	9	持続可能なくらしへ物やお金の使い方	買い物の仕方について考えよう	○買い物をする際には消費税がかかり，税金を払っていることを押さえる。

【第6学年】

教科	月	単元名	小単元 ・ 内容 (時数)	税金との関わり
社会	4	わたしたちの生活と政治	わたしたちのくらしと日本国憲法 3／6 ・くらしの中の基本的人権の尊重	○三大義務の一つである納税の義務によって，今の生活が成り立っていることを押さえる。 ○納税は大人だけではなく，子どもも行っていることを押さえる。
	5		子育て支援の願いを実現する政治 5／7 ・税金の働き	○税金はわたしたちの生活を支える大切なもので，多くの人が必要とする事業に使われることを押さえる。
			震災復興の願いを実現する政治 3・4／7 ・災害復旧に向けた国の支援 ・復興を願う市や市民の取り組み	○税金によって，災害復旧や復興が行えたことを押さえる。

	5 6	★租税教室		○税理士さんから租税について学ぶ。
	7	日本の歴史	天皇中心の国づくり 2 / 6 ・大化の改新と天皇の力の広がり	○国に納める租・調・庸は、現在の税金につながることを教える。
理科	10	変わり続ける大地	地震や火山の噴火による災害や災害に対する備えについて 3 / 4	○災害対策に税金が使われていることを押さえる。

8 カリキュラムの実践（令和元年度）

【第3学年】 ○総合「にこにこ栽培」

5 DAY野菜や果物の摂取量を増やす食育活動。

→スーパーマーケットで買い物をする際に、「消費税」を意識して買い物をすることができた。

【第4学年】 ○社会「火事からくらしを守る」

→火事から私たちのくらしを守るために消防署の方々が活躍しているが、その消防署の活動や消防車や救急車などにも税金が使われていることが分かった。私たちの安全なくらしのために税金が必要であることを感じることもできた。

【第5学年】 ○理科「台風と天気の変化」

→台風による被害や災害への対策や備えに、税金が用いられていることが分かった。私たちのくらしに何かあったとき、また、安全を守るために税金がとても大切なことを感じることもできた。

【第6学年】 ○社会「わたしたちのくらしと日本国憲法」

→三大義務とは、「勤労の義務」「教育を受けさせる義務」と並んで、「納税の義務」があることを学んだ。私たちの安全・安心なくらしを支えるための会費として「納める」必要性を感じていた。



9 研究の成果と課題

（1）成果

【5年生の実践】

- ・税金について知識のなかった児童が税金について理解し、税金は「取られるもの」から「納めるもの」に意識の転換を図ることができた。
- ・税金の必要性が分からなかった児童が、税金に支えられた生活を知ることによって、その必要性を強く感じることもできた。
- ・「わたしたちのくらしと税金」やゲームを活用することで、税金の基礎知識を楽しみながら学ぶことができた。

【カリキュラムの実践】

- ・既存の学習内容に織り込むことで、時数を確保する必要性がなく、無理なく段階的に学ぶことができた。
- ・具体的な場面を通して税金について触れたので、税金と生活のつながりを実感しながら学ぶことができた。また、税金の必要性を感じることもつながった。

(2) 課題

【5年生の実践】

- ・税金に対する正しい知識を身に付けることはできたが、具体的な税金の納付方法などまで触れることができず、研究主題である望ましい納税者を育てるまでには至らなかった。
→小学校段階で租税教育をどこまで進めていくのかの検討の必要性。
- ・5年生の学習の「総合的な学習の時間」の一部で扱ったが、5時間でも時数の確保が難しかった。また、他の学習とのつながりがあまり見られなかった。
→6年生で租税教室を行い、社会科の学習とつなげる。
3年生段階から、少しずつカリキュラムに入れて取り組んでいく。

【カリキュラムの実践】

- ・令和2年度に学習指導要領が改訂になり、各学年のカリキュラムも変更になった。3年生から段階的に継続して税についての学習を実施していく必要がある。

令和3年度
将来積極的に社会に参画していく
納税者を育む指導の工夫
～段階的に継続して育む
カリキュラムを通して～
名取市立増田西
教諭 齋藤

2 主題設定の理由

- ▶ 2019年教室にエアコン設置
- ▶ 消費税が10%になる

↓

多くの児童が「税金」という言葉を知らない
時数の確保と継続性に課題

↓

- ① 税金は「必要なもの」と感じる実践
- ② 小学校3年生から段階的に行うカリキュラム作成

3 研究目標
税金に関する授業や租税教室を通して、税に関する正しい知識を身に付け、望ましい納税者意識を育成できる指導法を探る。

↓

4 研究実践

- ① 意識調査
- ② 租税教室・名取市税務課や国税庁の資料をもとに税金の必要性について考えさせる
- ③ 学習のゴールとして「絵はがき」作り
- ④ 事後の意識調査
- ⑤ 小学校3年生から段階的に行うカリキュラム作成

5 研究の計画

学年	単元	内容
5年	8月	実態調査
	総合的な学習の時間 9月	実践授業①税金って何だろう ②税金の使い道の決め方 ③租税教室 (講師 木村経営管理会計 税理士 木村拓也氏) ④昔の税・外国の税 ⑤絵はがきを書こう 「税に関する絵はがきコンクール」応募
	10月	事後調査 研究のまとめ
3-6年	11月 令和2年11月 (6学年時)	カリキュラム検討 研究発表会

6 研究の概要

(1) 児童の実態 5年2組34名 令和元年8月実施

① 税金について知っていることはありますか。

・知っている (2) ・言葉は聞いたことがあるが知らない (31) ・言葉も知らない (5%)

② 税金は誰が納めるものですか。

・全国民 (7) ・大人だけ (6) ・子どもだけ (0) ・分からない (21) (20%)

③ 税金にはどのような種類があるでしょうか。

・消費税 (4) ・たばこ税 (1) ・国税 (1) ・だつ税 (1) ・税金 (1)

④ 税金はどのようなことに使われていると思いますか。

・国のために使われている (1) ・被災したところに使われている (1)
・公共施設を作るのに使われている (1) ・ほしい人にあげる (1)

⑤ 税金は必要だと思いますか。

・必要 (2)
理由: 平和に暮らすため (1) ユーチューブで必要と言っていたから (1)
・不要 (0)
・分からない (32) (5%)

↓

児童の多くが「税金」の意味を正しく認識していない、誤った認識
税金の必要性も「分からない」児童がほとんど

名取市立増田西小学校

(2) 学習計画 5年 総合的な学習の時間 (5時間扱い)

時	主な学習活動	指導、支援のポイント	評価規準(方法)
1	税金とは何か、何に使われているのかを知る。	税金がなくなったかどうかなかを考えさせ、税金とは何かを確認する。 税金の「とられるもの」というイメージから、私たちの生活に必要なものであるというプラスのイメージをもたせる。	課題に対して自分なりの予想や見通しをもつことができる。
2	税金の使い道の決め方について知り、選挙の大切さを理解する。	税金の使い道の決め方について数え、選挙の大切さにも触れる。 税金を使って街を作るゲームを通して、具体的なイメージを持たせる。 私たちは富んだ国を運営が決められているという考え、間接的に税金が決められていることに気付かせる。	【他】友達と意見交換したり、一緒に考えたりしながら、税に関して考えを深めたり、多様な考えがあることに気付くことができる。
3	租税教室で、税金についてより詳しいことを知る。	大きなお金が税金として働いていることを実感し、税金について考える大切さを知る。 実際に税金を見せることで、実感をもたせることができるようにする。	【他】税の専門家の話を聞いた後、疑問したりしながら、税についての考えを深めることができる。
4	日本の税の変化、外国の税について理解する。	昔と外国の税とを比較させ、税金について客観的に考えさせる。 外国の税について知り、比較することで、税についての考えをもつことができるようにする。	【明・表】税金と自分の生活とのつながりに気付く。外国や日本の過去の税と比較しながら、今の日本の税について考えることができる。
5	税金の必要性や大切さを呼びかける絵はがきを書く。	学んできたことをもとに、税金とは、安全・安心な暮らしを支えるための金銭であり、必要であることを他者にも気付かせる。 絵はがきを書くことで、1月1日に届く。多くの人に呼びかけることができるようにする。	【明・表】伝える相手を意識して、税金の必要性を伝える絵はがきを書くことができる。

(3) 実践の概要

税金について知ろう			
5年 組 番 ()			
時間	課題	より深い(本物の学習であったことより深いこと)	評価
1	税金とは何だろうか。		
2	税金の使い道はどうやって決めるのだろうか。		
3	専門の先生から税金についてくわしく学ぶ。		
4	昔にも税金があったのか。外国にもあるのか。		
5	税金の大切さをみんなに呼びかける絵はがきを書く。		

単元構想表 (児童配付用)

総合的な学習の時間 計5時間計画

(3) 実践の概要

【①税金とは何だろうか】 1 / 5 時間目

税金とは税金の種類
税金がなくなったら

(3) 実践の概要

【①税金とは何だろうか】 1 / 5 時間目

税金が使われているもの探し
①教室の中から探す
②学校周辺から探す

(3) 実践の概要

【①税金とは何だろうか】 1 / 5 時間目

児童感想

▶勉強する前は、税金をとりすぎだと思いましたが、今ではみんなの安全・安心を守るために必要なんだなと思いました。

▶税金は必要ないんじゃないかなと思っていましたが、税金がないと生活できないし、税金は大切なんだなと思いました。

(3) 実践の概要

【②税金の使い道】 2 / 5 時間目

名取市立増田西小学校

(3) 実践の概要
【②税金の使い道】2 / 5 時間目

(3) 実践の概要
【②税金の使い道】2 / 5 時間目

児童感想

- ▶ みんなのほしいものだけじゃ、街は成り立たないんだと思いました。大人になったら投票したいです。
- ▶ 税金は、国民から受け取って使う物なので、使い道をしっかりと考えないとだめなんだと思いました。
- ▶ 税金は話し合っって使い道を決めるのが分かりました。ほくも7年後に投票するのでもっと税金について詳しく知りたいと思いました。

(3) 実践の概要
【③租税教室】3 / 5 時間目

「お金の集め方」ゲーム
・税の集め方には多様な方法がある
・1億円のレプリカをもって

(3) 実践の概要
【③租税教室】3 / 5 時間目

児童感想

- ▶ 同じ金額のお金を集めるのであっても、いろいろな集め方があることが分かった。
- ▶ みんなが納得するお金の集め方は難しく、答えがないことが分かった。
- ▶ 水道の水にも税金が使われていることが分かったので、無駄にしないようにしたいです。

(3) 実践の概要
【④昔・外国の税】4 / 5 時間目

(3) 実践の概要
【④昔・外国の税】4 / 5 時間目

児童感想

- ▶ 昔の税金がお米と知ってびっくりしました。昔から税はあるんだと分かりました。
- ▶ 私は、スウェーデンのように税金が高くても、医りょうのほしようがされているのがいいなと思いました。

名取市立増田西小学校

(3) 実践の概要

【⑤絵はがきを作ろう】 5 / 5 時間目



(3) 実践の概要

【⑤絵はがきを作ろう】 5 / 5 時間目

児童感想

▶税金がみんなの暮らしを助けていることを絵はがきで表せたので良かったです。家族みんなにはがきを見せて税金の大切さを伝えたいです。

▶みんなに伝えたい気持ちを書くことができて良かったです。これからみんなに税金について知ってもらって、税金で明るい未来にしていきたいです。

(4) 児童の変容 (事後アンケートから)

① 税金について知っていることはありますか。

・知っている (34) ・言葉は聞いたことがあるが知らない (0) ・言葉も知らない (0)

+32

② 税金は誰が納めるものですか。

・全国民 (34) ・大人だけ (0) ・子どもだけ (0) ・分からない (0)

+27

③ 税金にはどのような種類があるでしょうか。

・消費税 (31) ・所得税 (8) ・法人税 (4) ・固定資産税 (4)

・たばこ税 (2) ・酒税 (2) ・住民税 (1) ・自動車税 (1) ・関税 (0)

④ 税金はどのようなことに使われていると思いますか。

・学校 (12) ・学校の机や机、黒板など (7) ・公園 (7) ・道路 (5)

・消防署 (4) ・警察署や警察官の給料 (4) ・救急車 (4) ・信号機 (3)

・市役所 (3) ・教科書 (2) ・ダム (2) ・ゴミ処理場やゴミ処理 (2)

・図書館 (1) ・被災した土地の復興 (1) ・みんなが使う物 (1)

⑤ 税金は必要だと思いますか。

・必要 (34) +32

理由：生活に必要なものだから 国を豊かにしていくために必要

国民を守るために必要 みんなのために使われるお金だから

被災した人を助けられなくなるから

・不要 (0)

・分からない (0)

7 租税教育を盛り込んだカリキュラム (提案)

【第3学年】

教科	月	単元名	小単元・内容・(時数)	税金との関わり
総合	6	ここにご栽培	5 DAY に参加する 11/20 ・野菜や果物の摂取量を増やす食育活動	○スーパーマーケットで買い物をする際に、消費税を認識させる。
社会	4	わたしのまち みんなのまち	市の様子 6/12 ・学校や図書館などの公共施設が充実している。便利に生活できることを押さえる。	○公共施設を作るために、国のお金が使われていることを伝える。
	11	くらしを守る	火事からくらしを守る 4/7 ・消防署へ行く	○消防署の活動、消防車や救急車などに税金が使われていることを押さえる。
	12	事故・事件からくらしを守る	4/9 ・警察の仕事	○警察官の活動に税金が使われていることを押さえる。
	1	市のうつりかわり	市の様子と人々のくらしのうつりかわり 6/10 ・市の公共施設はいつごろできたのでしょうか	○学校や図書館などの公共施設は、昔から計画的に建設されており、税金を使って整備された施設によって人々の生活も変わってきたことを押さえる。

【第4学年】

教科	月	単元名	小単元・内容	税金との関わり
社会	6	住みよいくらしをつくる	水はどこから 4・5/11 ・ダム・浄水場の働きについて	○みんなが安全な水を飲むことができるためのダム・浄水場をつくるために税金が使われていることを押さえる。
	7	ごみしよりと利用	4・5/14 ・清掃工場ではごみをどのようにして処理しているのか	○清掃工場を作ったり、ごみを処理したりするために多くの税金が使われていることを押さえる。
	9	地震からくらしを守る	4・5/9 ・市の地震対策について調べよう	○津波避難ビルや避難表示などの地震に備えた設備、震災復興に税金が使われていることを押さえる。

【第5学年】

教科	月	単元名	小単元・内容	税金との関わり
理科	10	台風と天気の変化	台風による災害に対する備えについて 3/4	○災害への対策に税金が用いられていることを押さえる。
	10	流れる水のはたらき	川の水による災害や災害に対する備えについて 8/12	○災害への対策に税金が用いられていることを押さえる。
社会	12	わたしたちの生活と環境	自然災害を防ぐ 3・4・5/5 ・津波災害への取り組み ・風災害への取り組み ・火山の噴火や大雪への取り組み	○自然災害から国土を保全し国民生活を守るために、国や県などが様々な対策や事業を行う際に税金が用いられていることを押さえる。
	9	持続可能な暮らしへ物とお金の使い方	買い物の仕方について考えよう	○買い物をする際には消費税がかかり、税金を払っていることを押さえる。

【第6学年】

教科	月	単元名	小単元・内容（時数）	税金との関わり
社会	4	わたしたちの生活と政治	わたしたちの暮らしと日本国憲法 3/6 ・暮らしの中の基本的人権の尊重	○三大義務の一つである納税の義務によって、今の生活が成り立っていることを押さえる。 ○納税は大人だけではなく、子どもも行っていることを押さえる。
	5		子育て支援の願いを実現する政治 5/7 ・税金の働き	○税金はわたしたちの生活を支える大切なもので、多くの人が必要とする事業に使われることを押さえる。
			震災復興の願いを実現する政治 3・4/7 ・災害復旧に向けた国の支援 ・復興を願う市や市民の取り組み	○税金によって、災害復旧や復興が行えたことを押さえる。
	5 6	★租税教室		○税理士さんから租税について学ぶ。
	7	日本の歴史	天皇中心の国づくり 2/6 ・大化の改新と天皇の力の広がり	○国に納める租・調・庸は、現在の税金につながることを教える。
理科	10	変わり続ける大地	地震や火山の噴火による災害や災害に対する備えについて 3/4	○災害対策に税金が使われていることを押さえる。

8 租税教育を盛り込んだカリキュラム (実践)

【第3学年】

○総合「にこにこ栽培」

5 ADAY：野菜や果物の摂取量を増やす教育活動。



スーパーマーケットで買い物を
する際に税金の一つである
「消費税」を意識して買い物を
することができた。



8 租税教育を盛り込んだカリキュラム (令和元年度・実践)

【第4学年】

○社会「火事からくらしを守る」

わたしたちのくらしを火事から
守るために消防士さんたちの活躍
があることを学ぶ。



消防車や救急車、消防署の活動
には税金が使われていることが
分かった。安全なくらしのために
税金が必要であることを感じた。



8 租税教育を盛り込んだカリキュラム (実践)

【第5学年】

○理科「台風と天気の変化」

台風による被害や災害に対する
備えについて学ぶ。



災害への対策に税金が使われて
いることを学んだ。みんなの安全
を守るために税金がとても大切な
ことを感じるすることができた。



8 租税教育を盛り込んだカリキュラム (実践)

【第6学年】

○社会「わたしたちの暮らしと日本国憲法」

日本国憲法に記されている権利と
義務について学ぶ。



三大義務の一つとして「納税の
義務」があることを学んだ。私た
ちの安全・安心なくらしを支える
ための会費として「納める」必要
性を感じるすることができた。



9 研究の成果と課題

(1) 成果

【5年生での実践】

- ・知識のなかった児童が税金について**正しく理解**できた
- ・税金は「**取られるもの**」から「**納めるもの**」へ意識の転換
- ・税金の**必要性を強く感じる**ことができた
- ・パンフレットやゲームの活用→税金の**基礎知識を楽しく学**べた

【カリキュラムの実践】

- ・時数の確保の必要性がなく、無理なく段階的に学べた
- ・具体的な場面で扱った→税金と生活のつながりを実感できた
→税金の必要性を感じることができた

9 研究の成果と課題

(2) 課題

【5年生での実践】

- ・税について基礎・基本は身に付けることができたが具体的な納税方法までは触れることができなかった
→小学校段階で租税教育をどこまで進めていくのか検討の必要性
小中連携
- ・5年生「総合的な学習の時間」の一部で扱ったが、時数の確保の難しさ。
→6年生で租税教室を行い、社会科の学習とつなげる
→3年生段階から少しずつカリキュラムに入れて取り組んでいく

【カリキュラムの実践】

- ・学習指導要領改訂によるカリキュラムの変更
→3年生から段階的に実施していくので、これから指導を継続していく。

※ 本実践は、当初葛西教諭が令和2年度の発表を予定し、5年生の児童を対象として令和元年度に計画・実践したが、コロナウィルスの流行で実践が中断、令和2年度に再開した実践である。葛西教諭は、令和3年4月に死去したが、途中まで書かれた研究発表要項が残されていた。それを、鈴木が加筆し、まとめたものである。

1 研究主題

児童が税に関する興味・関心を高めるための指導の工夫
～児童自らが課題を設定し、調べる活動を通して～

2 主題設定の理由

納税は、日本国民の三大義務の一つであり、社会が成り立つために必要不可欠なものである。税金は、国や地方公共団体が公的サービスを行うのに必要な費用をまかなうために使われ、児童にとっても学校生活や日常生活における様々な場面で関わっている。

しかし、5年生の児童にとって「税金」に対する知識は大変乏しく、無償で配布されている教科書や、学校等の公共・共同の設備に税金が使われていることを児童はよく理解していない。

児童にとって一番身近な税金といえば「消費税」である。当時、消費税が8%から10%引き上げられ、軽減税率など、ニュース等で多く取り上げられていたもので、「消費税」という言葉を知っている程度であると思われる。

そこで、児童が自ら課題を設定し調べることで、税金に対する興味・関心を高め、さらに、税金の意義や役割について正しい知識を身に付けることで、税金の必要性や重要性に気付かせることができるのではないかと考え、本主題を設定した。

3 研究目標

税金に対する興味・関心を高め、税金の必要性や重要性を理解するための指導のあり方を探る。

4 研究の方法

- (1) 税金に対する意識調査を行い、児童の実態を把握する。
- (2) 租税教室を通し、税金に対する興味・関心を高めるとともに基本的な知識を身に付ける。
- (3) 租税教室で学んだことを生かして、児童に課題設定をさせる。
- (4) 課題ごとにグループを編成し、インターネット等を活用して調べる。
- (5) 新聞にまとめ、読み合うことで知識を広げる。
- (6) 事後調査を行い、変容を考察する。

5 研究の経過

年	時 期	研 究 内 容
令和元年	1 1 月	事前意識調査
	1 2 月	租税教室（巨理町税務課）1 クラスで実施
		（中断・再開）
令和2年	6 月	社会科「震災復興の願いを実現する政治」で、税金についても取り上げる
	9 月	「税に関する絵はがきコンクール」に全児童が応募
	1 2 月	租税教室（巨理町税務課）3 クラスで実施
	1 2 月	課題設定 グループ編成
令和3年	1 月	調べ学習
	2 月	新聞にまとめ、読み合う
	3 月	事後意識調査

6 学習内容

段 階	主な学習内容	時間
実態意識調査	・税に対する意識実態調査を行う。	
税金について知ろう。 （元年度1クラスで実施）	・租税教室に参加し、税金についての基本的な知識、意義や役割について理解する。	1
税金について知ろう。	・税の種類や働きについて理解する。	1
税に関する絵はがきをつくろう	・「税に関する絵はがきコンクール」応募作品をつくる。	1
税金について知ろう （2年度3クラスで実施）	・租税教室に参加し、税金についての基本的な知識、意義や役割について理解する。	1
学習の見通しを立てよう	・税金について疑問に思ったことや、さらに詳しく調べてみたい事柄について出し合い、課題を設定する。 ・設定した課題に対してグループを編成し、調べ方やまとめ方について見通しをもつ。	2
税金について調べよう	・本やパンフレット、インターネットを活用し、課題について調べる。	3
税金についてまとめよう	・調べたことを新聞にまとめる。	3
新聞を読み合おう	・新聞を読み合い、内容を友達同士で共有する。	1
学習を振り返ろう	・学習の振り返りを行う。（事後意識調査）	

7 研究の概要

(1) 児童の実態（事前意識調査）

<税に関するアンケート> 5年1組 27名

○「税金」という言葉を知っていますか？

・知っている (15名)

- ・知っているけどよく分からない（12名）
- ・知らない（0名）

○税金にはどんなものがあるか知っていますか？（複数回答可）

- ・消費税（14名）
- ・たばこ税（3名）
- ・酒税（3名）
- ・無答（13名）

○税金はどんなことに使われているか知っていますか？（複数回答可）

- ・学校（13名）
- ・道路（4名）
- ・公園（3名）
- ・先生（公務員）の給料（3名）
- ・病院（1名）
- ・消防署（1名）
- ・無答（13名）

5年生の児童は、全員が「税金」という言葉は知っている。そして、買い物で税金を払っていることも知っている。但し、その名称を「消費税」ということまでは、知らない児童も少なくなかった。税の種類は、消費税など身近なものにかかる税金しか分からない。また、税金の使われ方も、よく分かっておらず、自分たちの払う税金が自分たちの生活に役立てられていることを理解させたい。

(2) 実践の概要

<税金について知ろう>

☆令和2年度租税教室（1クラスだけ受講）

- ・税金とは何か
DVD「マリンとヤマト 不思議な日曜日」
を視聴
- ・税金でできているもの
- ・教育費と税
- ・1億円の重さ「実際に持ってみよう」

- ・税の種類
- ・教科書も税金で

☆令和3年度租税教室（3クラスすべてが受講）

- ・世界の税金「ソーダ税，ポテトチップス税，渋滞税」
- ・税の種類
- ・税金の使われ方
- ・教育費と税



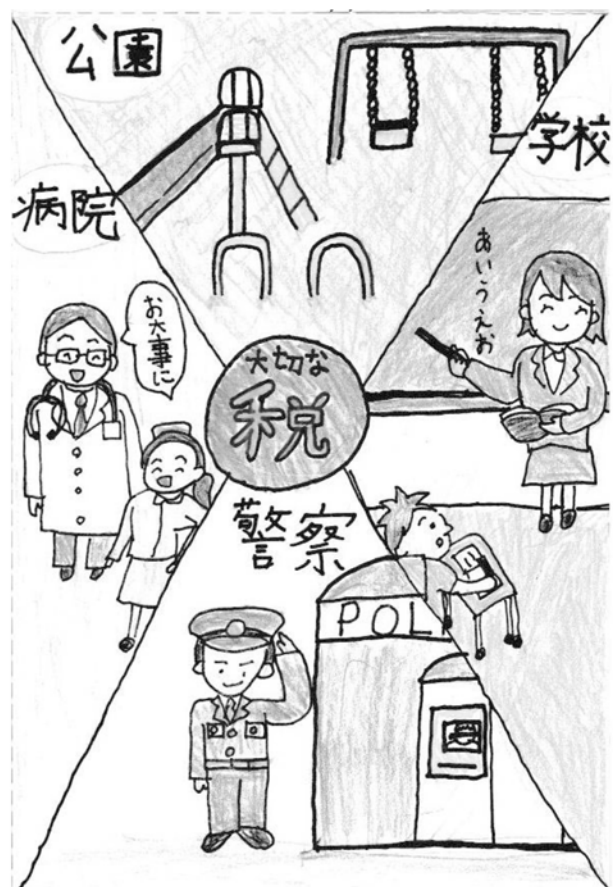
- ・ 1億円の重さ「実際に持ってみよう」
- ・ 税金とは何か
DVD「マリンとヤマト 不思議な日曜日」
を視聴
- ・ もし税金がなかったら
- ・ 税金の使い道の決め方
- ・ 納税は国民の義務
- ・ オリンピックと税金（報奨金は無税）
- ・ 宝くじと税金（宝くじも無税）
- ・ ノーベル賞と税金（賞金も無税）
- ・ 税の歴史



亘理町税務課の方に来ていただき、5年時と6年時に税金について上記のように様々な観点から詳しく教えていただいた。DVDを見たり、クイズに答えたり、1億円のレプリカを持ったり、児童は興味を持続させながら受講することができた。また、税金がなかったらどうなるのかを知ることによって、税金の重要性の理解を深めた。

<税に関する絵はがきをつくろう>

※令和2年度6年児童の作品がなかったため、令和3年度6年児童の作品を掲載



＜学習の見通しを立てよう＞

児童は、右記新聞のように「世界の税金」や「税の集め方」など、これまでの学習を通して興味をもった課題を立てた。そして、同じ課題や似たような課題の児童をグルーピングした。

＜税金について調べよう＞

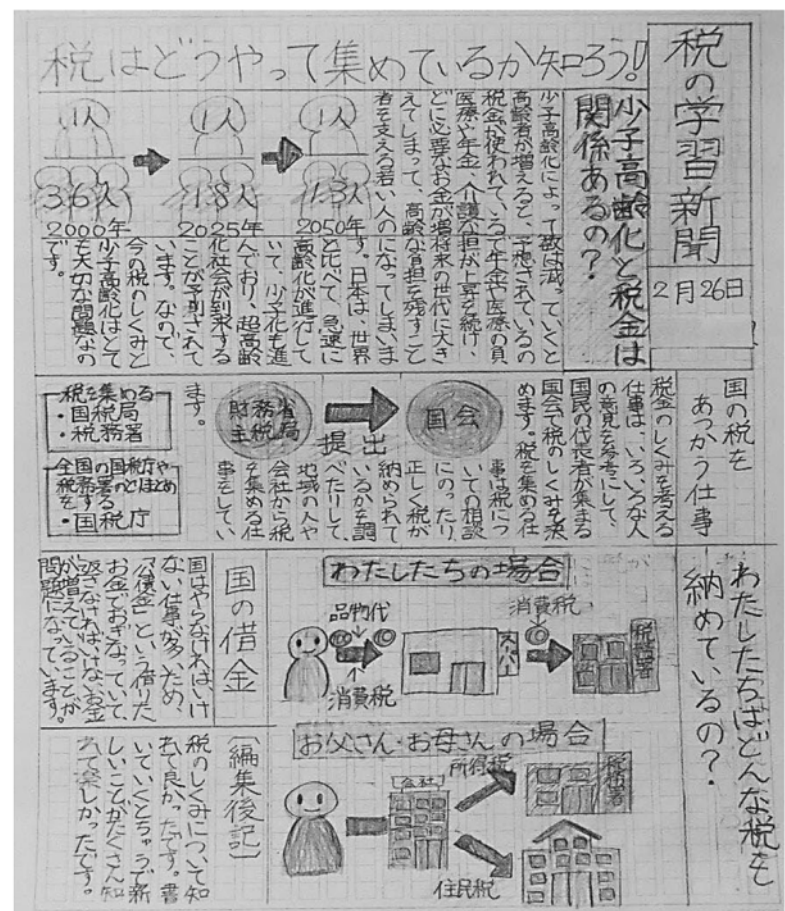
本やパンフレットを活用する児童は少なく、ほとんどの児童が配付されたタブレットを使い、友達と情報交換しながらインターネットで調べていた。

＜税金についてまとめよう＞

右記のように、新聞にまとめた。内容として多かったのが、「税の種類」「外国との消費税率の比較」「税の使われ方」「税の歴史」であった。

＜新聞を読み合おう＞

でき上がった新聞を読み合っ
た。興味をもったことを調べ、まと
めているため、「税の種類」「外国と
の消費税率の比較」などに終始し、
「税の使われ方」に全く触れてい
ない新聞もあった。そうすると、税
の重要性に関する記述が見られな
い。しかし、お互いの新聞を読み合
うことで、税の重要性に関する記
述を目にすることが多くなり、内
容を共有することができたと思わ
れる。



<学習を振り返ろう（事後意識調査）>

<税に関するアンケート> 6年3組 26名

○「税金」は大切だと思いますか？

- ・思う (25名)
- ・思わない (1名)

○税金にはどんなものがあるか分かりましたか？（複数回答可）

- ・消費税 (20名)
- ・たばこ税 (8名)
- ・酒税 (5名)
- ・法人税 (5名)
- ・所得税 (10名)
- ・自動車重量税 (5名)
- ・固定資産税 (4名)
- ・住民税 (1名)
- ・関税 (1名)
- ・外国にある税金 (13名)
- ・無答 (0名)

○税金はどんなことに使われているか分かりましたか？（複数回答可）

- ・学校（校舎，机やいす） (15名)
- ・教科書 (5名)
- ・道路（信号機） (8名)
- ・公園 (4名)
- ・先生（公務員）の給料 (4名)
- ・病院 (1名)
- ・消防署 (5名)
- ・警察 (3名)
- ・オリンピック (1名)
- ・年金 (6名)
- ・医療費 (8名)
- ・自衛隊 (1名)
- ・介護 (2名)
- ・役場 (1名)
- ・無答 (1名)

社会科での学習や租税教室，調べ学習や新聞を読み合う学習を通して，税金の重要性はほとんどの児童が理解している。そして，税金の種類や使われ方も知識が広げることができたことが分かる。税金の種類に関しては，ポテトチップス税やソーダ税など，外国の珍しい税金が印象に残る児童が多かった。税金の使われ方に関しては，医療費や年金が印象に残る児童が多

かった。現在小学生の医療費は無料になっている自治体がほとんどだと思うが、それが税金であることに気付いたり、お年寄りに年金が支払われているを知ったりした児童が多かったのではないかとと思われる。

8 成果と課題

(1) 成果

- 租税教室は、外国の珍しい税金を紹介していただくなど、児童の興味を高める内容が多く、またDVDを見ることで税の必要性や重要性に気付くので、とても有意義であった。
- 税について自ら課題をもち、調べ学習を行うことで、興味関心を高めることができた。
- タブレットで調べ学習を行うことで、スクリーンショット機能が使え、必要なところはメモすることがなくなり、調べ学習時間の短縮につながった。
- 互いにつくった新聞を読み合うことで、さらに税に関する知識を広げることができた。また、多くの児童が税の重要性に気付いていることから、税の重要性を再認識できたものと考えられる。

(2) 課題

- 時数確保の難しさがある。総合的な学習の時間の内容は、コロナ禍で実施できないものがあることから、可能だったかのかかもしれないが、10時間ほどをどう確保するか、今後検討すべきである。

1 研究主題

租税についての関心を高め、税金の必要性を実感する児童の育成
～税に関する身近な問いについて調べ、解決する学習を通して～

2 主題設定の理由

税に関する学習は、小学校学習指導要領社会編では第6学年の指導内容として示されている。租税の役割について、「租税が国や県、市によって行われている対策や事業などの費用として使われていること、それらは主に国民によって納められた税金であることなどを理解できるようにする」とある。

まず、これから大人になり納税の義務を負う児童にとって租税について関心を高めることは社会生活を営む上で必須であると考え、何のために払うのか、払った税金はどこへいくのか、税金は何に使われているのかなどについて学ぶことで租税への関心を高めていきたい。

次に租税が国や県、町によって行われている対策や事業などの費用として使われていることを実感的に理解するためにより身近な部分に目を向けさせ、問いを立てさせる。その問いについて解決する過程や解決した問いを共有する活動を通して、税の役割や必要性を実感的に理解できると考え、主題を設定した。

3 研究目標

租税教育の実践を通して、児童が租税について関心を高め、税金が国民生活の向上と安定のために欠かせないことを実感できる授業の在り方を明らかにする。

4 研究の方法

- (1) 租税に関する意識調査を行い、実態を把握する。
- (2) 社会科の単元「子育て支援の願いを実現する政治」における学習を通して租税に関して学び、税についての関心を高める。
- (3) 身の回りの税によって賄われている事例に目を向けさせ、税に対しての視点を増やし、課題設定につなげる。
- (4) 課題ごとに活動班を編成し、調べる活動に取り組む。
- (5) 発表会を開き、成果の共有をする。
- (6) 学習を通してのまとめをし、自己の変容を捉えさせる。また、事前との変容を見取り、考察につなげる。

5 研究計画

令和3年	7月	実態調査
	9月	授業実践
	10月	研究のまとめ

6 研究の概要

(1) 児童の実態：事前調査（令和3年度 6年1組 14名 7月実施）

- 1 税金にはどのような種類のものがありますか。知っているものをすべて書きましょう。
 - ・消費税（13名） ・所得税（4名） ・たばこ税（3名） ・事業税（2名）
 - ・住民税（1名） ・固定資産税（1名） ・関税（1名） ・相続税（1名）
- 2 税金はどのようなところで使われていると思いますか。
 - ・学校で使うもの（机，椅子，教科書）（5名） ・校舎や体育館，プール（3名）
 - ・道路の整備，工事（3名） ・病院（2名） ・警察署（2名）
 - ・子育て支援（2名） ・国や県，市町村の施設（2名） ・iPadや電子黒板（2名）
 - ・公務員の給料（1名） ・ごみ収集車（1名） ・みんなの役に立つこと（1名）
- 3 税金は必要だと思いますか。また，その理由も書いてください。
（ はい 14名 わからない 0名 いいえ 0名）
（主な理由）
 - ・税がなくなったら買い物をするときに安くすむけど，その代わりに税で支えられているものを自分で払わなくてはいけなくなる。
 - ・税金がないと生活が大変になるという話を聞いたことがあるから。
 - ・税金がなければ道路がぼろぼろになったり，病院ですごくお金がかかったりするから。
 - ・税金があると何かの役に立つと思うからです。
 - ・税金がなくなると買い物をするときに安くなるけど，警察を呼ぶときにお金がかかったり病院でみてもらうときに医療費が高くなったり，道路が整備されなかったりして日常で不便なことが多くなるから。
- 4 税金のイメージはどのようなものですか。
 - ・難しい。
 - ・なければ100円のおかしが100円ですむ。あると108円になる。
 - ・もう少し減らしてほしい。
 - ・必要だけどもう少し下げてほしい。
 - ・とても大事なもの。
 - ・ないと生活が苦しくなる。
 - ・私たちの生活になくてはならないもの。
 - ・私たちの生活に役立っているもの。

【考察】

自分で払ったことがあると考えられる消費税が最も身近な税であることが分かった。「相続税」や「関税」，「固定資産税」など児童の生活とは直接関係がないようにも思える税を知っている児童もいた。

税金の使われ方については，普段多くの時間を過ごしている学校関係のものが多くなった。ハード面では机や椅子，校舎，体育館，iPad，電子黒板，病院などが挙げられた。ソフト面では子育て支援やごみ収集が挙げられた。「みんなのために役立つこと」といった概念的な回答は1名と少なく，全体的に公共のために使われていることを理解しているのは学級の中でも一部であると考えられる。

税金の必要性については全員が必要だと感じているが，その理由については「ないと自分たちの生活が困ると思う。」といった抽象的な内容のものが大半であり，具体的にどのようなところで税金が使われているか理解している児童は少ない。

税金に対するイメージは「生活に役立つもの」「なくてはならないもの」といったプラ

スの捉えもあれば、「難しい」「下げてほしい」といったマイナスの捉えもあり、必要だとは感じている反面、生活のどの部分に役立っているか曖昧であることが分かる。

以上から、税金が私たちの生活のどの場面で役立っているか具体的に調べて明らかにすることと、もし税金がなければ、生活はどのように変わるのかについて考えることが研究目標達成のために有効だと考える。

(2) 指導計画

月	学習内容	時数
8～9月	「子育て支援の願いを実現する政治」の中の「税金の働き」(5/7)について学習する。	7 (1)
9月	「わたしたちのくらしと税金」を活用して税金について更に知り、課題意識をもち、問いを設定する。	1
	問いの種類ごとに活動班を編制し、調べ活動に取り組む。	1
	調べたことを発表会で共有し、税についての理解を深める。(本時)	1
10月	学習のまとめ	1

(3) 本時の指導

1) 本時の目標

自分たちが学校生活を送るために多くの税金が使われていることを知り、租税への関心を高め、必要性について理解する。

2) 指導の実際

段 階	学習内容 主な発問 (・) 児童の反応 (○)	指導上の留意点
導 入	1 前時までの学習を振り返る。 ・税金にはどんなものがあり、どこで使われていますか。 ○消費税，所得税，法人税，住民税・・・など。 ○学校以外だごみ処理場とかだったね。 ・私たちが払った税金はどこにいくのかな。 ○国かな？ ○町税っていうのを聞いたことがあるよ。町にもいっているのではないかな。	・払った後にも目を向けさせることで、自分たちの生活に還元されていることを

	2 本時の課題を設定する。 税金についてさらにくわしく知ろう。	実感できるようにする。
展 開	3 「わたしたちの暮らしと税金」を活用し、税金が町のどこに使われているか知る。 ○思ったより多くの場所で使われているね。 ○税金が使われていないのは会社が運営している場所だよ。 ○税金が使われているのはみんなが使う施設だね。 ○公共的な場所って言い方もできるね。 4 「もし税金がなかったら」どのようなことになるか話し合い、税金の必要性について考える。 ・もし税金がなかったら町はどのようなことになると思いますか。 ○浄水場がないときれいな水が飲めなくなる。 ○ダムがないと雨や災害から町を守ることができなくなるね。 ○ゴミ処理場がなければ町はごみだらけになってしまう。 ○公共施設を利用するのに自分たちのお金を払うと考えるとばく大な金額になりそうだ。 5 設定した問いについて調べたことの発表会をする。 ICT と税金 ○ICTは結構高そうだ。 ○iPad や電子黒板にはいくらぐらいかかっているのかな。 学校の工事と税金 ○去年からやっていた大規模改修のことかな。 ○2月の地震でプールと体育館を修理しているね。 ○これも税金で直してくれているのか。 コロナ対策と税金 ○コロナ対策って具体的に考えたことはなかったな。 ○消毒液は薬局にも売っているけど、どのくらいするのかな。 学校の生活費と税金 ○生活費って水道代とか電気代のことかな。 ○学校全体ではいくらぐらいかかっているのかな。	・自分たちの住む町では公共的な施設がどこにあるか、行ったことはあるかななどを聞き、身近に感じられるようにする。 ・もし税金がなければ生活するだけで多額のお金がかかることを理解し、税金が生活の向上と安定のために必要であることを理解させる。 ・実際の物や施設を想像しながら活動班ごとの発表を聞くように声を掛ける。
終 末	6 本時の学習を振り返り、まとめをする。 ○税金がないと生活が大変になることが分かった。 ○コロナ対策などにも税金が使われていると知り、驚いた。 ○学校以外だとどこにどれぐらいの税金が使われているのか気になった。 ○税金を納めることは、自分たちの生活を維持したりよりよくしたりするために必要だと思った。	・これまでの学習をまとめながら、月末にある選挙についても触れ、選挙と税金の関わりについて関心を持てるようにする。

「わたしたちの暮らしと税金」を活用して税金が町のどこに使われているのかを調べる様子。





1. テーマ 
工事と税金
 工事の中で私達と繋がりのあるものを調べ、どんなものにどのくらい使われているのかを調べました。

1. テーマ
 学校の生活費
 普段私達が過ごしている学校では、どのくらいの税金が使われているのか

1. テーマ
 ICTと税金
 学校の中で私たちがよく使っているICTがどれほどの値段がかかっているのかを調べ
 どれほど税金がありがたい物なのかを調べる。

1テーマ
 コロナ対策のための税金について
 <理由>
 コロナの影響で学校にどれくらいのお金を使っているか詳しく調べてみたかったから。

(4) 児童の実態調査：事後（令和3年10月実施）

- 1 税金にはどのような種類のものがありますか。知っているものをすべて書きましょう。
- ・消費税（14名）1名増 ・自動車税（6名）6名増 ・住民税（5名）4名増
 - ・所得税（5名）1名増 ・たばこ税（5名）2名増 ・法人税（4名）4名増
 - ・固定資産税（2名）1名増 ・関税（2名）1名増 ・相続税（2名）1増

- 2 税金はどのようなところで使われていますか。
- ・学校で使うもの（机，椅子，教科書，iPad など）（9名）4名増
 - ・校舎や体育館，プール，修理費（6名）3名増 ・道路の整備，工事（3名）増減なし
 - ・病院（4名）2名増 ・警察署（3名）1名増 ・子育て支援（2名）増減なし
 - ・国や県，市町村の施設（7名）5名増 ・公務員の給料（4名）3名増
 - ・ごみ収集車（2名）1名増 ・みんなの役に立つこと（3名）2名増
 - ・浄水場（2名）2名増 ・ダム（1名）1名増 ・公共施設（5名）5名増
 - ・コロナ対策（2名）2名増

- 3 税金は必要だと思いますか。また，その理由も書いてください。

（ はい 14名 わからない 0名 いいえ 0名）

（主な理由）

- ・税金がないと学校に行くだけでもたくさんのお金がかかってしまうから。みんなの発表を聞いて学校生活を送るだけでもたくさんのお金がかかることを学んだ。
- ・税金がないと，税金で支えられている物や設備は全部自分で払わなくてはならないから。
- ・税金がなければ普通に生活することができなくなってしまうからです。
- ・私たちを支えてくれているから。
- ・税金がないと公共施設を使ったりゴミを捨てたりするときに多くのお金を自分たちで支払わなければいけないから。
- ・税金がないと私たち自身の暮らしが大変になるから。
- ・税金がなければ学校が地震などで損壊してしまっても直すことができない。
授業などで使う ICT や iPad など自費で払わなければいけなくなる。道路を通るのに税金が必要になる。ゴミ収集車を自分で頼まなければいけない。
- ・道路を通る時にお金がかかったり，ゴミ処理車がゴミを処理しなくなったりして町が汚れてしまうから。

- 4 税金について新しく分かったこと，大事だと思ったことを書きましょう。（実践授業後の感想）

- ・税金は僕たちの暮らしを支えてくれる大切な存在だということが分かりました。
- ・いつも何気なく払っていた税金が私たちを助けてくれていることが分かりました。
- ・税金は，今まであまり良いイメージはありませんでしたが，自分たちでまとめてそれを発表したり発表を聞いたりしてみるとすごくいいものなのだと思います。
- ・町にある施設は，ほとんどが税金で成り立っていることを知りました。10%に消費税が上がったときは嫌だったけど，今は国に寄付をしている気がするので嬉しいです。
- ・最初は税金を払いたくないと思っていたが，税金の色々な役割を知って税金を払いたいのと思いました。
- ・税金が無かったら学校にあるほとんどの物を自分たちで払わないといけなかったのだと改めて思いました。
- ・全国ではどのくらいの税金が使われているのか気になりました。
- ・税金を何のために払うのか，なぜ払わなければいけないのか改めて考えると，全て自分たちのためだったので税金は必要で，大切なものなのだと感じました。
- ・税金はみんなの生活に必要なもので税金によって賄われているものは世の中にたくさんあり，税金はみんなの生活を支えてくれていることが分かった。
- ・今までは税金は良いイメージがなかったけど今回の学習で知って，私たちの暮らしは税金に助けられているのだと思いました。学校以外にはどれくらいの税金が使われているのか今度詳しく調べてみたいです。

7 成果と課題

(1) 成果①

事後の実態調査から、事前よりも多くの税の名前を挙げることができた児童がほとんどであり、自主学習などでそれぞれの税がどのようなときに納められているのかを探求的に調べる様子も見られた。また、税金がどこで使われているかについては、事前には挙がらなかった具体的な施設名（浄水場やダムなど）や〇〇（公務員）の給料、コロナ対策という回答が新たに加わった。中でも「公共的な」や「みんなの役に立つことに使われている」といった表現が多くなり、税金が国や地方公共団体による対策や事業に使われ、国民生活の向上と安定のために重要な役割を果たしていることを理解していたと考えられる。

成果②

実践授業後の感想では「払った税金が何に使われているかを知ることができて払っている意味が分かった。」や「税金は自分たちの生活を支えている。」、「税金の役割について分かった。」、「税金がなければ私たちの生活は大変なことになりそう。」といったものが多かった。これらの感想から、児童の租税に対する関心が高まったことや租税が自分たちの生活を支えていることに気付いたことが分かる。

成果③

調べ学習を進める過程からは、自分たちが普段学校で使っている学習用具（iPad 等）や学校生活を送っている校舎に多額の税金が使われていることを実感し、租税の必要性について理解できたのではないと思う。全国や県ごとなどのおおまかなデータではなく、町、更には学校、個人単位でのデータを集めてまとめたことでより税金を身近に感じられたと考える。これに関連して、税金で賄われている学習用具や施設を大切に使おうという態度を養えたことも成果として挙げられる。児童の調べ学習のために町の教育総務課から詳細な資料を提供していただいたことが学習の充実につながった。

以上より、税に対する身近な問いを見出し、解決するという手立てが本研究目標を達成するうえで有効であったことが分かる。

(2) 課題

税金の使い道の決め方や県、国といった規模にまで学習を発展させることは難しかった。実際に「全国ではどのくらいの税金が使われているのか気になりました。」や「学校以外の公共施設にはどれくらい税金が使われているのか」といった学習感想もあったが追究する時間を確保できなかった。余裕のある単元構成にできなかったことは大きな反省点である。「まだまだ調べてみたい!」という児童たちの意欲に応じた単元構成、時数の配当の仕方を検討していく必要があると感じた。

8 参考資料

租税教育発表資料

1. テーマ
2. テーマ設定の理由
3. 調べて分かったこと
4. 考えたこと
5. 感想

1. テーマ ICTと税金

学校の中で私たちがよく使っているICTが
どれほどの値段がかかっているのかを調べ
どれほど税金がありがたい物なのかを調べる。

2. テーマ設定の理由

ICTは凄く高いイメージがあったので学校ではいくら
かかっているのか気になったから

ipadと税金

最近ipadなどを授業でよく使いますよね！
さて、このipadなどのことを何というでしょうか？
そう！ICTです。

ここで問題です！！

ipad1台の値段はいくらだと思いますか？

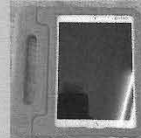
①約4万円

②約5万円

③約6万円

この中に正解があります！！

正解は…



③の約6万円 5万9180円
でした！ついでにクラス
14人分だと82万8520円で
す。

Wi-Fi設置費と税金

インターネットは何から出していますか？

Wi-Fiからですよ！去年この学校にもWi-Fiが付き
ました。さてここで問題です！

Wi-Fiの設置費は坂小だけで

何円かかっているのでしょうか！？

この3つの中から選んでください！

①約120万円

②約370万円 ③約580万

正解は……………！！！！！！！！



③の約580万円(577万3020円)でした！

税金が無かったら考えると

寒気がします☹

ちなみに山元町の学校全ての

設置費は3426万4120円です☹

このようにいろいろなところで税金は役に立って
いました!!次は電子黒板と税金です！

電子黒板と税金

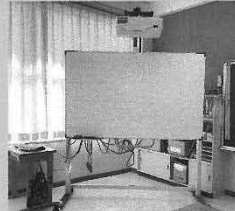
皆さんは歴史にドキリをなにで見えていますか？
電子黒板ですよ！
さてここで問題です！
電子黒板一台の値段はどの位だと思いますか？

①約24万円

②約54万円

③約100万円

④約113万円



正解は

③の約100万円
(101万1120円)です



そして学校には
電子黒板が11台もありま
した。

そして合計金額は
1112万2320円でした
次はipadの保管庫です！

皆さんはiPadをどこにしまっていますか？
ipad保管庫ですよ！?

ここで問題です！

保管庫1つの値段はどのくらいすると思
いますか？

①約22万円

②約17万円

③約9万円

この中に正解があります！

正解は…

①の約22万円です！

正確な数字だと

21万8662円です！

税金がなかったら

これも自腹ですよ？

大切に使いたいですね



ipad保管庫と税金

そして坂小だけで5台もあり
ます。
全額で109万3310円です！

感想

税金を使って人の生活に役立てているのは凄い事だと思いました。

こんなに税金が僕たちの生活を支えてくれているんだと思い驚きました！
税金がないとどれほど生活が大変になるのか改めて知ることができました。

沢山の物が税金で賄われているんだと思いました。

そしてもし税金がなかったらすごい金額を自分達で支払う事になると思うと税金ってあまり良いイメージが無いけどとても大切なんだなあと思います。

保管庫1つでこんなにかかっていて大切に使いたいなと改めて感じました。
坂小だけでこんなにかかっているの、県内ではもっとかかっているのだから税金ってすごいなと思いました。

1. テーマ

工事と税金

工事の中で私達と繋がりのあるものを調べ、どんなものにどのくらい使われているのかを調べました。

学校の大規模改修工事の総額は

4. 考えたこと

身近に行われていた工事は大量の税金が使われていて、税金は大切なものだと思います。

工事や体育館の修理費

は、ものすごく多いお金がかかっているのが分かりました。

2. テーマ設定の理由

去年から続いている大規模工事はどのくらいの税金が使われているのかを知りたくなったからです。

総額

1億4千万

感想

税金は町の道路や学校、病院などなど様々な所生かされていてみんなが安心・安全・幸せに暮らす為にあることが分かりました。自分たちも税金を払うことを嫌がらずに払いたいと思いました。

3. 調べてわかった事

学校の大規模工事にかかった税金の内訳は
床や壁などの内装改修費
約1000万円
外壁等改修費
約2300万円



2月の地震でかかる予算
総額3800万 (予算)

町費 1700万
国費 2000万



工事だけで1億円以上使っていて、びっくりしました。こんなにかかる工事をするのにたくさんの税金が必要なので、改めて税金の大切さがわかりました。

1. テーマ
学校の生活費
普段私達が過ごしている
学校では、どのぐらいの
税金が使われているのか

3. 調べて分かった事
①電気代
5人家族の平均
1ヶ月→約12,471円
1年間→約149,652円

坂元小学校の平均
1ヶ月→123,363円
1年間→1,452,376円

②水道代
5人家族の平均
1ヶ月→6,737円
1年間→51,491円

坂元小学校の平均
1ヶ月→約56,119円
1年間→約673,423円

③ガス代
5人家族の平均
1ヶ月→5,300円前後
1年間→69,195円

坂元小学校の平均
1ヶ月→20,416円
1年間→244,992円

5. 感想

税金がないと学校に通えても、自由に使えるお金がなくなったり、親の仕事が多くなったりして大変だと思いました。

家と学校ではこれほどまでの差があることを知りました。さらに、節電や、水道代の節約を頑張りたいです。税がないと、みんながこまるので、大切だと思いました。

2. テーマ設定の理由
前の授業で学校はほとんどの生活費が税金でまかなわれていると知り具体的な額を知りたいと思ったから。

3. 調べて分かった事
①電気代
5人家族の平均
1ヶ月→約12,471円
1年間→約149,652円

坂元小学校の平均
1ヶ月→123,363円
1年間→1,452,376円

②水道代
5人家族の平均
1ヶ月→6,737円
1年間→51,491円

坂元小学校の平均
1ヶ月→約56,119円
1年間→約673,423円

③ガス代
5人家族の平均
1ヶ月→5,300円前後
1年間→69,195円

坂元小学校の平均
1ヶ月→20,416円
1年間→244,992円

学校だけでもこんなに税金が使われていて、やっぱり税金が無いと私達の生活は成り立たないと思いました。

3. 調べて分かった事

①電気代
5人家族の平均
1ヶ月→約12,471円
1年間→約149,652円

坂元小学校の平均
1ヶ月→123,363円
1年間→1,452,376円

②水道代
5人家族の平均
1ヶ月→6,737円
1年間→51,491円

坂元小学校の平均
1ヶ月→約56,119円
1年間→約673,423円

③ガス代
5人家族の平均
1ヶ月→5,300円前後
1年間→69,195円

坂元小学校の平均
1ヶ月→20,416円
1年間→244,992円

4. 考えた事

5人家族に比べて坂元小学校の電気代やガス代、水道代の差がとても大きい事が分かりました。
無限にあるわけじゃないので、電気代やガス代、水道代の節約をしたいです。

学校の電気代に使う税金は、一般家庭の方の約10倍なので税金が無ければ10倍の額を払わなければならないので税金がないと大変だと思いました。

1テーマ
コロナ対策のための税金について
<理由>
コロナの影響で学校にどれぐらいのお金を使っているか詳しく調べてみたかったから。

ハンドソープ
17個
17×1017

=17319円

答えは.....
③の約32万円
でした～！

調べてわかった事
ウェットティッシュ

1個 700円



マスク



1箱
1650円

<考えたこと>

コロナ対策のために
色々な物にお金を
をかけていることを
知りました。

アルボナース



1個
1597円

ハンドソープ



1個
約1017円

クイズ

坂元小学校のコロナ対策に
使っている総額はいくら？

- ①約112万円
- ②約68万円
- ③約32万円

<感想>

私は、アルボナースが意外
に高かったのでびっくり
しました。コロナ対策の
ためにとてもお金をかけて
いるのが分かりました。

税金で私たちのためにた
くさんのお金をかけて対
策をしてくれているとい
うことがわかりました。

アルボナースとかは税金
このくらいかかるんだな
と思いました。そして税
金がないとすごく大変な
んだなと思いました。

令和 3 年度 租税教育に関する研究発表要項

岩沼市立岩沼北中学校
教 諭 古川 明子

1 研究主題

『租税の意義や役割を正しく理解し、納税者として社会や国の在り方などを主体的に考えることができる生徒の育成』 ～身近な地域の調べ学習を通して～

2 主題設定の理由

学習指導要領における租税の意義と役割の扱いとして「統計資料などを有効に活用しながら租税の大まかな仕組みやその特徴にも触れ、国民生活に大きな影響力をもつ財政を支える租税の意義や税制度の基礎を理解できるようにする。」とある。また、日本国憲法では日本国民の義務の一つとして納税の義務が掲げられている。国民が教育を受け、勤労し、税を納め、持続可能な社会を作っていくことは今後の日本の発展にとって大事なことである。さらに、次世代を担う生徒たちが国の基本である税の役割や意義、納税者の権利や義務を正しく理解し、国や社会の在り方を主体的に考えることは、民主国家の維持・発展にとっても重要なことと考えられる。

一方で、生徒のアンケートの結果から税金の種類や、どのように徴収され、何に使われているかなど具体的なしくみや働きについての認識が低いことが分かった。また、税を納めることについては前向きな気持ちをもっている生徒が少ないことも見えてきた。特に、身近な税金である消費税については、これ以上の増税に反対であるという意見が大多数であった。さらに消費税がどのように使われているかを理解している生徒は、ほとんどいなかった。

私たちは、収入の一部を割いて税金を納めている。税がどのように使われているか、また正しく使われているのかなどに関心をもつ必要があると思われる。税の配分によって私たちの生活は大きく変わっていく。特に自然災害や、現在のコロナ禍のような不測の事態の時に税の存在が国民生活に大きく関わってくる。生徒が国民として、また将来の主権者として日本の税制度について正しい認識をもつことは、非常に大事なことである。よって生徒の一人ひとりが、税のあるべき姿をしっかりと捉え、自分たちの手で国政をより良くしていこうとする関心や態度を育てたいと考え、本主題を設定した。

3 研究目標

税金の意義や役割を正しく理解し、納税者として主体的に国政に関わろうとする態度を育成する指導のあり方を探る。

4 研究仮説

身近な地域の資料を使いながら、納税者の立場になり課題に取り組むことで、税に関しての理解が深まり、主体的に国政に関わろうとする態度が育つだろう。

5 研究方法

- (1) アンケート調査により、生徒の税に関する実態を把握する。(令和3年7月実施)
- (2) 実践授業<1> 税に関する資料(「私たちの暮らしと税」制作:宮城県租税教育協議会仙台国税局)を用いて、租税の種類や役割を理解する。
実践授業<2> 税の公平性についてワークシートを使い、意見交換をする。
実践授業<3> タブレットを用いて、個々で岩沼市の財政を調べまとめる。
実践授業<4> 岩沼市の税金がどのように使われ、自分たちの生活にどのように関わっているのかをタブレットで調べ、より良い税金の使い方について考える。
実践授業<5> 社会保障制度を学びながら、これからの日本の財政について考える(「小さな政府か」「大きな政府か」を外国と比較し意見交換する。)
- (3) 事後調査を行い、生徒の変容を把握する。(令和3年10月実施)

6 研究の概要

- (1) 税に関するアンケート調査 (中学3年 全3クラス 77名) 令和3年7月実施

- ① 知っている税金の名前を書いて下さい。(複数回答可)
消費税(71名) 所得税(30名) 住民税(10名) 酒税(15名)
関税(40名) 自動車税(45名) 固定資産税(7名)
法人税(5名) 分からない(6名)

② 納めた税金は何に使われていると思いますか。(複数回答可)
道路整備(48名) 年金(61名) 医療費(35名) 救急車(18名)
教育(37名) 公務員の給料(28名) 介護関係(17名)
分からない(28名)

③ 税金を納めたいと思いますか。
納めたい(32.3%) 納めたくない(67.7%)
＜理由＞
○納めたい
・生活が良くなるから ・道路や信号など公共施設に使うから ・年金
・教科書などが無償で給付されるから ・国のためになるから
○納めたくない
・給料が減るから ・お金がもったいないから ・負担が増えるから
・何に使われているか分からないから ・正しく使われてないから
・消費税がだんだん増えてきているから ・貯金が増えない

④ 消費税の増税に賛成ですか。
賛成(25.5%) 反対(74.5%)

⑤ 消費税が、8%から10%になった理由が分かりますか。
分かる(15.3%) 分からない(84.7%)

⑥ 岩沼市の財政に興味がありますか。
興味がある(87.7%) 興味がない(12.3%)

<実態調査の考察>

知っている税金の種類としては、消費税と書く生徒がほとんどであった。その理由としては普段の生活で一番身近であり、自分自身も納税しているという意識があるからだと思われる。また 10% へと増税があり関心が高まっていとも推測される。しかし、認知度が高い消費税ではあるが、なぜ 10% になったのか、何に使われているのかなどの問いに対して答えることができた生徒はほとんどいなかった。自分自身が税を納めているにもかかわらず、納める理由が分からないのである。このことが、納税に対する抵抗感をもつ遠因にもなっているようである。また固定資産税や住民税、法人税などを記入する生徒は少なかった。一方で、たばこ税や、酒税、自動車税など複数記入した生徒もあり、租税に対する知識には、やや個人差があることがうかがえる。

税金の使われ方では、教科書や学校、医療費など身近なものをイメージしている生徒が多く、生活を良くするために使われていることを理解していることが分かる。反面、何に使われているか分からない生徒が 28 名いた。そのことが納税に対しての否定的な思考につながっていると考えられる。また、自分たちの住んでいる岩沼市の財政に興味を持っている生徒が、8 割以上であった。よって、租税学習を实践する上で、岩沼市の財政の様子や税金がどのように市政や岩沼市民に反映されているのかを調べながら、税の意義や役割を具体的に把握することが有効であるといえる。

(2) 実践授業 (全 5 時間扱い)

実践授業<1> 「 税のしくみを理解する 」 (1 時間扱い)

各自、タブレットを使い『NHK for school』の『アクティブ 10 公民「税金、安けりゃイイの？」』という番組を見て租税について学ぶことへの興味・関心を高めさせた。次に税金に関する資料(「私たちの暮らしと税」制作：宮城県租税教育協議会 仙台国税局)を用いて「税金はなぜ必要か」「税金の種類」「税金のしくみ」について学習した。

<成果>

8 分の番組であり、自分のタブレットなので画面を静止してメモを取ったり、巻き戻しをしてもう一度見たりする生徒などがいた。租税への興味・関心を高まるという点と、税のそれぞれの特色を掴むという点において効果的であった。また、税金に関する資料においては、具体的な数字や説明が分かりやすく記載されているので税金の必要性やしくみなどを理解するのに非常に効果的であった。特に生徒たちが興味を示したのが、公立学校の生徒 1 人当たりの年間教育費の税金での負担額である。中学生 1 人当たりが年間約 105 万円にもなることに驚いた様子であった。



実践授業＜２＞ 「 税の公平性について考える 」 （１時間扱い）

課題プリント「1万円の食事会」を用いて、税の公平性について考えさせた。小グループで意見交換をし、考えを共有したり深めたりした。その後、累進課税制度について学習した。

＜生徒の考え＞

- ・ 5 人とも公平に 2,000 円ずつ支払う。
- ・ あくまでも収入が多い人が払うべき。
- ・ 豊かな人が多く支払うべきであるが、無職の E さんは、さすがに支払わないのはためなので 1,000 円に設定した。
- ・ 食べる量が多い人が、多めに支払う。
- ・ みんながまずは、2,000 円ずつ支払う。そこから、お酒を飲む人とたくさん食べる人がさらに 500 円ずつ支払う。その合計 1,000 円分を無職の年金暮らしの E さんに支払う。
- ・ お酒をたくさん飲む C さんは、酒税を納めているので多く支払う必要がない。

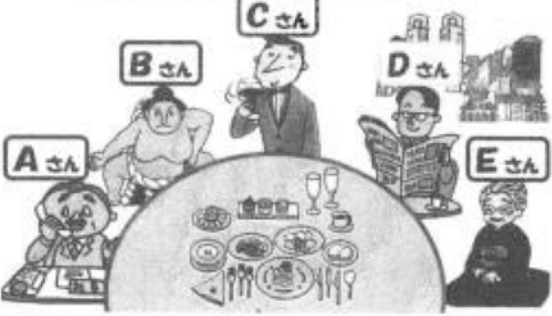
＜成果＞

課題の内容が身近で分かりやすい内容だったので、どの生徒も取り組みやすいようであった。小グループでの意見交換も様々な考えが飛び交い、活発にできた。また前時に学習した酒税や法人税、固定資産税などの語句が意見交換で使われていた。予想以上に様々な意見が出てきて学び合いの中から、税の公平性について深く追究することができた。さらに意見交換の後にスムーズに累進課税制度の説明に入ることができた。

一 万 円 の 食 事 会

公平とは？（税金の種類と仕組）

【課題】 ある食事会の費用が1万円かかりました。
みなさんなら、どうやってわけますか？



	職業	どんな人？	払う金額
A さん	大会社の社長	すごいお金持ちです	円
B さん	お相撲さん	たくさん食べます	円
C さん	会社員	たくさんお酒を飲みます	円
D さん	自営業	多くのアパートを持っています	円
E さん	無職	年金暮らしです	円
			合計 10,000 円

多く払う人や少なく払う人など、どのような負担がいいでしょうか？
払う金額欄に金額を入れて、その理由を書いてください。

理 由

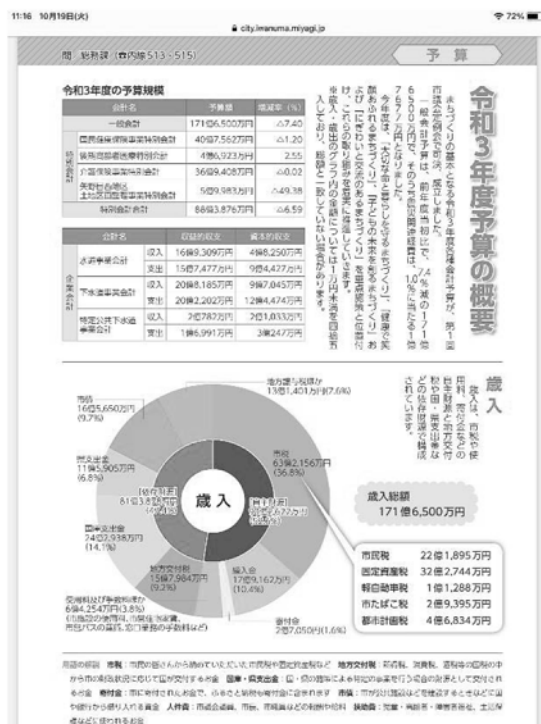
実践授業＜3＞ 「岩沼市の財政を調べ、まとめよう」(1時間扱い)

まず、令和3年度の岩沼市の歳入を予測させた。すると1,000万円や1億円と答える生徒が多く、実際には171億6500万円の歳入ということを知り、その金額の大きさに驚く生徒が多かった。岩沼市の財政については曖昧なイメージしかない生徒が多いことが分かった。

次に、各自タブレットを使い岩沼市の財政を調べ、分かったことをまとめさせた。以下のよう
なことを生徒はまとめた。

＜分かったこと＞ (一部抜粋 原文のまま)

- ・歳入の約4割が市税となっている。その中でも固定資産税が一番多い。
- ・歳出では、扶助費が一番多い。高齢化が進んでいることが分かる。
- ・年々、市の予算が減少している。(震災復興費の減少のためと少子高齢化のためか?)
- ・依存財源が年々増加している。
- ・国からの補助金が47%であり、国からの補助金があることが分かった。
- ・民生費の歳出が多いことから、岩沼市は社会保障がしっかりしていることが分かった。
- ・軽自動車税が平成30年度は9,235万円だったが、令和3年度は1億円1288万円であり軽自動車に乗る人が増加している。
- ・寄付金2億円の中には、ふるさと納税が含まれている。
- ・歳出の1割は教育費に使っている。市民1人あたりの支出額にすると47,749円で、予想以上に高いことが分かった。
- ・平成29年度の歳入では、震災復興特別交付税として13億円支給された。復興の総仕上げとして国から支給されたことが分かった。
- ・角田市と比較した。岩沼市は市税が全体の36.8%で角田市は全体の11%である。しかし歳入は岩沼市は171億6,500万円で、角田市は131億2000万円である。市税は岩沼市の方が約4倍多いのに、市税は2倍にもならないので疑問に思った。もう少し調べてみようと思う。
- ・市民1人あたりで見ると、収入額が143,940円で支出額が390,387円である。岩沼市民は、税金で安心で住みよい生活を保障されていることが分かった。



<成果>

自分たちの住んでいる市の財政ということで、生徒は意欲的に課題に取り組んでいた。タブレットを使用しながらの調べ学習は定期的に行っているためスムーズに学習を進めることができた。学習課題は、令和3年度の岩沼市の財政を調べるである。自発的に数年間の岩沼市の歳入・歳出を比較したり、名取市や仙台市などの近隣の市と比較したりと学習の広がりが見られた。特に角田市と比較することにより、さらに疑問が発生し課題の追究をする生徒がいたことが、大きな成果と思われる。また、納税を行うことにより、自分たちの生活が安心かつ快適に過ごせることに気付いた生徒が多かった点も成果である。

実践授業<4> 「より良い税の使い方を考えよう」(1時間扱い)

学習課題 「岩沼市の重点施策として

『大切な命と暮らしを守るまちづくり』『健康で笑顔あふれるまちづくり』

『子どもの未来を創るまちづくり』『にぎわいと交流のあるまちづくり』

があります。そのために岩沼市はどんな取り組みを行っているか調べましょう。」

以上のような学習課題を設定し、各自がタブレットを用いながら調べ学習に取り組んだ。その後クラス全体で発表会を行い、情報の共有を行った。その後、調べ学習を通して分かったことを発表した。

<調べた内容> (原文のまま)

- ・岩沼市交流プラザの建設
- ・千年希望の丘のレンタルサイクル
- ・ゴミ分別促進アプリ「さんあーる」
- ・防犯機能付電話機の無料貸し出し
- ・「バスの日」を設け、料金を100円とする。(9/15~9/30)
- ・あいバス・デマンドタクシーの運営
- ・東日本大震災追悼行事「希望の灯火」
- ・エココンパクトシティの形成
- ・「ハローキティ」とコラボ応援大使 (岩沼市政50周年記念)
- ・アニメ「バクテン」の制作(東日本大震災被災地支援の一環として)
- ・子どもの医療費助成
- ・教育関連(学校のエアコン設置 タブレットの支給 洋式トイレ化 いわぬま学び塾 自校給食)
- ・NPO法人やボランティア団体を中心とした住民による自発的なまちづくりをしている。
- ・岩沼市の広報やいわぬまラーメンマップの発行。

<成果>

生徒たちは、前時と同じく熱心に課題に取り組んだ。タブレットを利用することにより、短時間に様々な情報を得ることができた。調べたことをまとめた後に、全員に発表してもらい、岩沼市のまちづくりについての情報を共有した。その後、調べ学習をして分かったことや気付いたことをノートにまとめた。ある生徒は「岩沼市では、様々なまちづくりが行われていることが分かった。知らなかったことが多いので、これからは積極的に調べて関わっていきたいと思った。また、市はもっと住民に伝えるべきだとも思った。」と発表した。

市としての取り組みが数多く挙げられ、自分たちの身近な生活の様々な場面で税金が使われていることに気付いた生徒が多かった。特に教育関係では、恵まれた環境にあると答えた生徒が多かった。

実践授業<5> 「これからの日本の財政のあり方を考えよう」(1時間扱い)

現在の日本の少子高齢化の状態と、2050年の時の少子高齢化の読み取りを行った。次に日本の社会保障制度の仕組みを学習した。そして、今後の日本の財政の在り方として、アメリカのような低福祉低負担の「小さな政府」が良いか、スウェーデンのような高福祉高負担の「大きな政府」が良いかを考えた。以下のような意見が出た。

○アメリカのような「低福祉低負担」が良い

<理由>

- ・税金を納めるのを少なくし、若いうちからお金を貯めて老後に備えるのが良い。
- ・子育てにはお金がかかるので、税の負担は少ないほうが良い。
- ・やはり消費税10%は、生活する上で苦しいと思う。
- ・少子高齢化が進むなかで、逆に高福祉高負担は無理なような気がする。
- ・若い時は、車や家電など欲しい物がたくさんあるので税金の低負担が良いと思う。そして、政府は国民に高齢になった時に、安心して暮らしていけるように貯金をするように呼びかけてほしい。
- ・コロナの給付金のように、毎月10万円を国民に給付してほしい。そのお金をいざという時に各自が使うといいと思う。各自が、自分で社会保障費を準備するとよいのではと思う。

○スウェーデンのような「高福祉高負担」が良い

<理由>

- ・生きていて、病気や不慮の事故などに遭った時に社会保障制度がしっかりしていると安心だから。
- ・高齢者になって仕事を退職したら、年金は必要だから。
- ・私たちが、安心して学校で勉強できるので。
- ・安心して子育てができるので。
- ・日本では、大学の授業料が高く進学したくてもできない人がいる。なので、スウェーデンのように大学まで無償にしてほしいと思うので。
- ・納めた税金は、私たちの生活に還元されるので。
- ・将来の日本の財政を考えたら、今のうちから税の高負担が良いと思う。
- ・イギリスのような「ゆりかごから墓場」までの社会保障制度に賛成だから。
- ・日本国憲法の「生存権」に「国は、すべての生活面について、社会福祉、社会保障及公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない。」とあるので高福祉高負担が良いと思う。
- ・岩沼市の様々な取り組みを調べて、私たちは住み良い環境で生活していることが分かった。なので高福祉高負担が良いと思う。

<成果>

本時の学習は、「少子高齢化」と「日本の社会保障制度」を学習し、そこから今後の日本の財政を考える内容であった。内容的には、1時間では厳しいのではという思いがあった。そこで、これからの日本の財政については、アメリカとスウェーデンの国の社会保障制度を提示し、どちらの国の制度が望ましいかを考えさせ、意見を発表させてみた。すると予想以上に、多くの意見が挙げられた。3クラスのうち、どのクラスも「低福祉低負担」が良いと答えた生徒が3分の1で、「高福祉高負担」が良いと答えた生徒は3分の2であった。自分の意見をしっかりと言える生徒が多かった。また、前時までに学習したことを生かしながら発表する姿も見られた。特に将来に向けて日本はどうあるべきかを真剣に考えている様子が、伝わってきた。中には、コロナの給付金のことや、大学の授業料など国政にしっかりと向き合おうとする姿勢が見られる生徒もいた。このことは、研究主題である納税者として国の政治に主体的に考えられる生徒の育成に大きく近づいたといえる。

① 日本の税金が何に使われているか理解できましたか。

理解できた (90.2%)

理解できなかった (9.8%)

② 税金を納めたいと思いますか。

納めたい (100%)

納めたくない (0%)

③ 消費税の増税に賛成ですか。

賛成 (80.2%)

反対 (19.8%)

④ 消費税が、8%から10%になった理由が分かりますか。

分かる (90.7%)

分からない (9.3%)

⑤ 税金を納めることについての意識は、授業前と後では変わりましたか。

変わった (80.5%)

変わらない (15.5%)

<どのように意識が変わりましたか> (一部抜粋 原文のまま)

- ・私たちが、今払っているお金は、今の高齢者のためだけではなく将来の私たちのためでもあるということが分かり、悪いイメージではなくなった。お金の学習は難しそうでいやだと思っていたのですが、先生が大事なことだと言ったので、これから積極的に税金や日本の社会保障制度について学んでいこうと思った。
- ・税金は、悪いイメージがあったが、集めた税金でまちの整備や医療のためなどに使われていると知って、良いイメージに変わった。
- ・悪い印象しかなかったが、教科書や医療費などが税金でまかなわれていることが分かり、税金は必要なものだと思いが変わった。税金がなければ、当たり前のことが当たり前にできていなかったと思った。
- ・以前は、国が借金を返すために税金を納めていると思っていた。しかし、租税学習を通して、税金は国民のために存在するものだとなり、悪いイメージがなくなった。
- ・税金は何でこんなに高いのか、意味があるのだろうかと思っていた。しかし、その理由が分かり、税金を納めるのは、しょうがないと思うようになった。
- ・今までは、税金に対して何に使っているか分からない感じだった。税金についての授業を受けて税金の使われ方を明確に知ることができた。そして、ニュースや新聞などで税金のことが取り上げられると、積極的に見るようになった。
- ・税金の授業を受ける前は、消費税は本当に必要なのかと思っていたが、少子高齢化が進む日本には、とても必要だと思うようになった。
- ・授業を受ける前は、税金についてはぼんやりとしたイメージしかなかったが、授業を通して税金に対する理解が深まるようになり、とても身近なものと思うようになった。また、税金は私たちの生活に良くも悪くも深く関わってくるのだと思うようになった。

<租税学習を通して何を学びましたか>（一部抜粋 原文のまま）

- ・大人だけではなく、子どもである私たちも税金に関わっているのです、それについて勉強するのは大事であることを学んだ。また他人事にしてはいけないとも思った。
- ・税金の種類や累進課税などの意味が分かり、学ぶことが多かった。
- ・最初は、お金をとられて勝手に使われそうで税金はいやだなと思っていた。しかし、この授業を通して国も国なりに考えて税金を使っているのだと思うようになった。勝手に使うのではなく、年金や社会保障など国民の暮らしを守るために、消費税をアップさせていることも分かった。これから私たちが大人になっていく時に税金が増えたり、減ったりすることがあっても国民のためのものだと思うことが大事だと思った。
- ・自分の住んでいる岩沼市の財政を詳しく知ることができて良かった。思った以上に岩沼市は住民が安心して生活できるように税金を使っていることが分かった。
- ・税金は、お金を取られるイメージだったが、今は国民の生活を支えてくれる大事なものだということが分かり、うれしくなった。
- ・消費税が増税した理由が、高齢化社会に向けてのものだと分かり、すっきりした。
- ・租税教室を通して、納税の大切さが分かった。
- ・限りある財源を効率的に使っていくことが必要だと思った。
- ・最初は消費税が公平だと思っていたが、「税の公平さ」を学習して改めて公平さについて深く考えることができた。そして、累進課税のことを学んで、本当の公平さに気付くことができた。
- ・租税学習を通して、外国の税金と比較し、日本の今後の財政について深く考えることができた。
- ・日本はこれから少子高齢化が進み、どうなるか不安になったが、クラスの人たちの意見を聞いてなるほどと思う考えがあった。これからも積極的に日本の政治に関わっていきたいと思った。

<事後アンケートの考察>

設問の「税金を納めたいと思いますか」では、学習前は32.3%だったが、学習後は100%となった。また消費税の増税にも、肯定的な考えを持つ生徒が大幅に増加した。税金が何に使われているかについてや、消費税の増税の理由もほとんどの生徒が理解できた。5時間の租税学習は、生徒が税の意義や役割を理解する上で、有効的であったと考えられる。また、「どのように意識が変わったか」や「何を学んだか」といった記述では、生徒の一人ひとりが、真剣に考えながら記入している姿が見られた。内容も学習の成果が見られるものであった。

以上のことより、租税学習は生徒が租税の意味を理解し、かつ納税者として国政に主体的に関わることにについて大変効果的であると思われる。

7 研究の成果と課題

(1) 成果

○研究方法について

7月に実施した租税に関するアンケート調査から、生徒の実態を具体的に把握することができた。特に予想以上に税に対して否定的な生徒が多いことが分かった。また、税金が何に使われているのかや、消費税が増税した理由を明確に分かる生徒が少ないこともアンケートの結果から見えてきた。生徒の実態把握をすることにより、その後の実践授業の内容が組み立てやすくなった。

実践授業においては、本来なら4時間扱いの内容だが、アンケートの結果から、税の仕組みの学習に時間に時間をかけた。その成果が、事後調査の結果に現れている。また、岩沼市の財政を調べる活動を取り入れることにより、生徒の興味・関心も高められた。国政に対して主体的な考えをもつために、どの授業にも考える時間を設定した。事後調査での記述式の文章から、主体的に国政に関わろうとする生徒がいた。事後調査を行うことにより、生徒の変容を確かめることができた。

○実践授業から

- ・タブレットの利用は、生徒の興味・関心を高めるために効果的であった。NHKの番組は、税の種類や仕組みを理解するのに役立った。また、調べ学習を行う上でも非常に有効的であった。
- ・税金に関する資料「私たちの暮らしと税」を用いることで、生徒が税の仕組みや、種類、国家の財政などを知る上で有効的であった。
- ・ワークシートなどを使い、考える時間を設定した。その後、意見交換したり、情報を共有するなどの時間を設けた。その学習の中で生徒は思考を深化させ、主体的な考えが養われたと考えられる。
- ・身近な地域（岩沼市の財政や政策）を調べることで、税が自分たちの生活に大きく関わっていることを実感できた。
- ・これからの日本の財政という学習課題のなかで、国政について主体的に関わろうとする生徒が見られた。
- ・生徒が、租税をより身近な存在と感じ、納税の意義を理解できた。
- ・9月に実践授業を行うことにより、10月から学習する政治分野へとつなげやすかった。
- ・租税学習の実践授業を行うなかで、教師自身も税に関する専門的な知識を学ぶ必要性を感じ、教材研修に励むことができた。

(2) 課題

- ・租税に関する授業は、例年3学年の公民分野で行う。経済的分野で教科書に沿って進むと11月の半ば頃である。よって、今年度は日本国憲法の学習のなかで、国民の三大義務の一つである「納税の義務」から租税学習をつなげることにした。しかし、行政分野を詳しく学ぶ前に取り入れたので、専門的な語句や地方自治の説明をする必要があった。
- ・実践授業の5時間は、調べる学習や情報の共有、考える時間などが主な学習内容だった。その結果、重要語句の意味を理解したり、覚えたりする基礎的な分野が手薄になってしまった。よって、ワークブックなどを使いながら補充の時間を設ける必要があった。

租税教育実践発表一覧（昭和62年度～平成3年度）

年 度	学 校 名	担 当 教 諭 名	テ ー マ 名
昭和62	名取市立増田小学校	伊 藤 清 子	国民の生活の安定と向上を図るために、国民の三大義務のひとつである納税の義務を深く認識させる
	岩沼市立岩沼南小学校	千 葉 宗 久	租税に対する関心を高めるための指導のあり方についての一考察
	亶理町立逢隈小学校	堀 川 達 也	基本的人権の尊重が民主政治の根本であり、納税の義務はこれらの権利の見返であることを理解させる
	山元町立坂元中学校	佐 藤 光 雄	租税の役割と納税の義務の意味についての理解を深めさせる
	秋保町立秋保小学校	榑 井 裕	国の事業活動を通して、税の必要性や仕組みを理解させる
昭和63	名取市立関上小学校	小 暮 出	社会科教育の中で、租税の重要性を指導し、公共心・協調心に結び付け、これらを実践できる人間性を目標とした指導の工夫
	岩沼市立岩沼西中学校	鈴 木 啓二郎	金融と財政の働きの中で、租税と国民生活の関わりについての指導から税の意識の向上を図る
	亶理町立吉田小学校	今 野 喜代子	福祉関係等身近な事例を上げて税の重要性を指導し、最後に税の作文を通じて自覚をさせる
	山元町立山下中学校	菅 野 敏 郎	税に関するもの三点を上げさせ、これについて公民教育で考察することによる租税教育の実践
平成元	名取市立増田中学校	小 野 政 稔	租税の働きやしくみを理解させ、納税の義務を自覚させる
	岩沼市立岩沼西小学校	菊 地 真勇美	私たちの生活と政治の中から、租税について理解させる
	亶理町立吉田中学校	菊 地 嘉 昭	税に関する作品の応募から、財政と国民生活について指導
	山元町立坂元小学校	佐 藤 広 実	租税の簡単なしくみから、租税への関心を高めさせる指導
平成2	名取市立増田西小学校	鎌 田 彰 郎	産業廃棄物処理に関する学習の中で、税金の働きについてふれ、税の重要性を認識させる
	岩沼市立岩沼中学校	樋 口 英 明	財政を支える財源である租税の異議や役割を、経済の実態と動向にからませながら、税の重要性を理解させる
	亶理町立高屋小学校	太 田 久仁男	税金によって作られた公共物や学校施設を大切にする態度を育てる指導の工夫
	山元町立山下中学校	江 戸 寿	税金を正しく理解させるため、視覚教材を利用しながら見せる教育の実践
平成3	名取市立名取第二中学校	清 野 ひさ子	国民生活の中で、租税の働きを正しく理解させるための指導
	岩沼市立岩沼小学校	山 田 健 一	一人ひとりを大切にする政治の指導の中で、権利と税との関わりを考えさせる指導の実践
	亶理町立亶理中学校	本 間 和 哉	税に対し、生徒が主体的な活動により、興味・関心を持たせる指導の工夫
	山元町立山下第二小学校	佐々木 恭 也 小 関 尚 子	一人ひとりが健康で幸せな生活を送るために、税金は、どのように使われているかを理解させる

租税教育実践発表一覧(平成4年度～平成8年度)

年 度	学 校 名	担 当 教 諭 名	テ ー マ 名
平成 4	名取市立不二が丘小学校	丸 子 智 子	快適で豊かな生活を送るために税金はどのように集められ、また、どう使われるのか、自ら調べさせ理解させる指導
	岩沼市立岩沼北中学校	鈴 木 尚	租税の働きや仕組みを把握させ、正しい租税制度の在り方を理解させる指導
	亶理町立亶理小学校	木 村 和 正	税金が一人ひとりの生活に役立っていることを理解させる指導の工夫
	山元町立山下小学校	岩 佐 美保子 佐 藤 真 一	将来の自分や国を考えるために、税についての知識を深め、税の社会的意義を考えるとともに、興味・関心を持たせるような指導の工夫
平成 5	名取市立第二中学校	丹 野 光 洋	国民生活に大きな影響力をもつ、財政を支えている租税の意義を理解させ、また、税金は共同社会を維持するための会費であることに気付かせる指導の工夫
	岩沼市立玉浦小学校	渡 邊 清 孝	問題意識を持ち、自ら調べ解決する学習活動を通して、児童の税に対する興味・関心を高めさせる指導
	亶理町立吉田中学校	永 浦 晴 久	金融と財政の働きを租税教育の中心場面にとらえ、消費者としての私たちと関連させ、税をより身近なものとさせる指導の工夫
	山元町立中浜小学校	近 藤 英 人	児童一人ひとりに生活の中で、自分が税に対しどう関わっていけばよいかと考えさせる指導の工夫
平成 6	名取市立館腰小学校	高 橋 壽 子	問題意識をもって、自ら調べ解決する学習により、児童の税に対する関心を高めさせる税の意義と役割を理解させる指導の工夫
	岩沼市立岩沼西中学校	横 山 純	財政収入は租税を中心に成り立っていることを理解させ、納税の義務を負う国民のあり方について考えさせる指導
	亶理町立長瀨小学校	大 沼 仁	税金の必要性和その使われ方を理解させる指導を通して、税に対する興味・関心を高めさせる指導の工夫
	山元町立山下第一小学校	大 沼 毅	児童自ら税に対する課題意識を持たせ、調査し解決していく活動から、税の意義を理解させ、公共社会での責任と義務を培わせる指導の工夫
平成 7	名取市立愛島小学校	石 川 峰 生	子供の租税に対する関心を高めさせる指導の工夫
	岩沼市立岩沼小学校	大 沼 毅	税制度の理解を通して、公共社会での助け合いに対して、興味・関心を高めさせる指導の工夫
	亶理町立荒浜中学校	田 原 満	租税の意義と目的を理解させる指導を通して、税への関心を高める指導の一考察
	山元町立坂元小学校	菅 原 裕 子	税金の仕組みとその使われ方を理解させる指導を通して、税に対する関心・理解を高めさせる指導の工夫
平成 8	名取市立館腰小学校	芳 賀 佳 恵	課題意識を持ち自ら調べ解決する学習活動を通して、児童の税に対する関心を高めるための指導の在り方
	岩沼市立岩沼南小学校	菊 地 真勇美	税金は人々のくらしとどのように結びついているのかについて、身近な事例から気づかせ、納税の大切さを理解させる指導の工夫
	亶理町立荒浜小学校	佐々木 洋 美	計画・調査・発表を取り入れた学習活動を通して、児童の税に対する理解を深める指導の一考察
	山元町立坂元中学校	成 毛 毅	消費税と財政政策との関係をとらえて、税への関心を高める社会科公民的分野指導の一考察

租税教育実践発表一覧(平成9年度～平成13年度)

年 度	学 校 名	担 当 教 諭 名	テ ー マ 名
平成9	名取市立増田小学校	高 橋 千 佳	税に対する意識・関心を高めるための指導 ～6年『みんなの願いを実現する政治』の指導を通して～
	岩沼市立玉浦中学校	長 澤 裕 司	税への関心を高め、税を見る目を養う指導の一考察 ～税の公平性を考える討論活動を通して～
	亶理町立逢隈中学校	菊 地 幸 子	社会科学習における租税教育の在り方と指導方法の工夫
	山元町立山下中学校	佐 藤 泉	税に対する理解を深める指導の一考察 ～財政の学習を通して～
平成10	名取市立不二が丘小学校	杉 田 由 英	児童の税に対する関心を高めるための指導 ～6年『みんなの願いを実現する政治』の指導を通して～
	岩沼市立岩沼西中学校	及 川 浩 芳	社会科における租税への認識を高める指導の工夫 ～各分野において、身近な資料を活用し、税の必要性を理解させる指導を通して～
	亶理町立逢隈小学校	鈴 木 健	自分なりの課題を持ち、自分なりの方法で調査や課題解決を行い、自分なりの方法で表現していく子供の育成 ～租税に関する学習を通して～
	山元町立山下第二小学校	佐 藤 真 一	小学5年生の税に対する興味・関心を高めさせる指導計画の工夫
平成11	名取市立下増田小学校	高 橋 宏 明	児童の税に対する関心を高めるための指導の工夫 ～課題意識を持って自ら調べ表現する活動を通して～
	岩沼市立岩沼西小学校	水 沼 久美子	児童の税に対する関心を高めるための指導と学習計画の工夫
	亶理町立亶理中学校	星 和 敏	租税への関心を高めるための指導の工夫
	山元町立山下小学校	阿 部 広 力	小学校4年生の社会科学習における租税教育の効果的取り扱いについて
平成12	名取市立関上小学校	赤 沼 隆 史	児童の税に対する関心を高めさせる指導の工夫 ～自ら課題意識をもって調べる活動を通して～
	岩沼市立岩沼中学校	内 海 郁 子	児童の税に対する興味・関心を高めるための指導法の工夫 ～学び方を学ぶ学習を通して～
	亶理町立吉田小学校	渡 辺 隆	問題意識を持ち自ら学ぶ児童をめざして ～6年社会科の税金学習を通じた実践と考察～
	山元町立中浜小学校	阿 部 優 子	税に関することがらを主体的に学習させるための工夫
平成13	名取市立高館小学校	佐 藤 真理子	児童が税に対する興味・関心を持つための指導の工夫 ～住みよい「〇〇王国」作りの活動を通して～
	岩沼市立岩沼小学校	高 橋 悟	児童の税に対する興味・関心を高め、主体的に学習できるための指導の工夫
	亶理町立高屋小学校	大 槻 裕 史	児童の税に対する関心を高めるための指導の工夫 ～課題意識を持って自ら解決する活動を通して～
	山元町立山下第一小学校	佐 藤 尚 利	学校のプールが新しくなったよ！ ～税金博士を目指して～

租税教育実践発表一覧(平成14年度～平成18年度)

年 度	学 校 名	担 当 教 諭 名	テ ー マ 名
平成14	名取市立増田西小学校	鈴 木 和 彦	児童の税に対する関心を高めるための指導の工夫 ～租税に関するニュース番組作りの活動を通して～
	岩沼市立玉浦中学校	大 堀 真 澄	税の関心を高め、理解を深める指導の一考察 ～租税に関する討論活動を通して～
	亶理町立亶理小学校	大 森 実	社会科との関連をはかった租税教育の試み ～税に関する興味・関心を育む単元の工夫を通して～
	山元町立坂元小学校	高 倉 成 行	児童が税に対する興味・関心を持つための指導の工夫 ～総合的な学習の時間「税金ってなんだ」の活動を通して～
平成15	名取市立ゆりが丘小学校	松 浦 和 浩	学年ごとの児童の実態に応じた効果的な租税教室のあり方
	岩沼市立玉浦小学校	柴 田 新 二	税に関する興味・関心を高め、主体的に学習に取り組む指導の工夫 ～税についての調べ学習、未来の玉浦を考える活動、道徳を通して～
	亶理町立吉田中学校	小 鴨 幸 生	租税に関する興味・関心を高める指導法の工夫
	山元町立山下第二小学校	佐 藤 孝 志	税の学習を取り入れた総合的な学習の時間の指導の一考察 ～「未来の山元町を考えよう」の活動を通して～
平成16	名取市立増田中学校	渡 邊 義 行	公民の学習における租税への関心を高める指導の工夫
	岩沼市立岩沼北中学校	瀬成田 実	税への関心を高め、思考を深める指導法の工夫 ～適切な資料展示や討論活動をとおして～
	亶理町立長瀬小学校	西 澤 勝 雄	社会科学習及び総合的な学習における租税教育の効果的な指導の一考察 ～4年社会科「住みよいくらしをささえる」、5年総合的な学習「わたしたちの亶理町を考えよう」の活動を通して～
	山元町立山下小学校	平 間 正 信	自分らしさを発信する子ども ～学んだことを発信する学習を通して(小学5年生の実践)～
平成17	名取市立関上中学校	大 宮 潤	租税への関心を高める指導法の工夫 ～3年間を見通した租税教育～
	岩沼市立岩沼西小学校	建 入 文 夫	租税について考え、正しく理解させるための指導法の工夫 ～租税に関する社会科の学習を通して～
	亶理町立荒浜中学校	佐 藤 秀 樹	公民としての資質を育てる租税学習の工夫 ～地域住民へのアンケート活動を通して～
	山元町立山下第一小学校	稲 垣 祐 子	税を通して山元町の良さを知り、発信する子どもの育成 ～総合的な学習の時間の活動を通して～
平成18	名取市立館腰小学校	相 原 直 人	税に関心を持ち税金の大切さを考えることのできる児童の育成 ～ぼくらの税金ホームページ作りを通して～
	岩沼市立岩沼西中学校	森 本 直 樹 菅 原 正 弘	公民としての資質の基礎を養う租税学習の工夫 ～3学年公民での継続した学習を通して～
	亶理町立荒浜小学校	塚 口 誠	進んで学習に取り組む児童の育成 ～租税に関する学習を通して～
	山元町立山下中学校	仙 石 直 樹	租税について正しく理解し、主体的に考えることができる生徒の育成 ～3年公民分野における「タックスレポート」づくりを取り入れた学習活動の工夫を通して～

租税教育実践発表一覧(平成19年度～平成25年度) ※ 平成23,24年度は震災により中止

年 度	学 校 名	担 当 教 諭 名	テ ー マ 名
平成19	名取市立那智が丘小学校	大 友 幹 雄	税に関心をもち、税の社会的意義を考えることのできる児童の育成 ～税に関する新聞作りの活動を通して～
	岩沼市立岩沼南小学校	横 山 勉	児童が興味・関心をもつための指導の工夫 ～小学校4年生からの「税に関する学習」を通して～
	亶理町立逢隈中学校	長 田 康 宏	税に対する興味・関心を高める指導法の工夫 ～身近な地域素材の活用を通して～
	山元町立中浜小学校	日 下 泰 憲 西 澤 彰 子	児童の税に対する興味・関心を高めるための指導の工夫 ～総合的な学習の時間「中浜の松ぼっくりから」の実践を通して～
平成20	名取市立第一中学校	小 鴨 幸 生	租税への関心を高める指導法の工夫 ～身近な資料や租税に関する討論活動を通して～
	岩沼市立岩沼中学校	長 澤 裕 司	租税への関心を高め、納税者としての自覚を培う指導の一考察 ～財政上の課題を考えさせる場面の工夫をとおして～
	亶理町立逢隈小学校	高 倉 成 行	税金の役割を理解させるための指導の工夫 ～小学校6学年社会科「わたしたちの願いを実現する政治」の学習を通して～
	山元町立坂元中学校	堀 内 恵理子	税に関心を持ち、主体的に社会とかかわろうとする姿勢の育成 ～3年公民的分野における租税学習を通して～
平成21	名取市立第二中学校	丹 野 光 洋	『納税者としての意識を高めるための指導法』 ～租税教室や様々な資料で学んだことを基にした消費税に関するディベートを通して～
	岩沼市立岩沼小学校	佐久間 秀 和	租税への関心を高める指導の一試み —小学校6学年社会科「日本の歴史」での税の学習と「租税教室」の実践を通して—
	亶理町立亶理中学校	浦 邊 盛 勝	『税に対する興味・関心を高め、発展させる指導法の工夫』～生徒自身の身近な素材の活用を通して～
	山元町立坂元小学校	清 野 政 子	児童が税に対する興味・関心をもつための指導の工夫 —総合的な学習の時間「税金ってなに」の活動を通して—
平成22	名取市立相互台小学校	大 沼 史 柄	『租税への関心を高めるための指導の工夫』 —公共施設から税金を考える—
	岩沼市立玉浦中学校	山 田 洋 子	『税の必要性についての意識を高めるための指導法の工夫』—小学校6学年社会科「わたしたちの願いを実現する政治」の学習を通して—
	亶理町立吉田小学校	渡 辺 英 明	『身近なことから税金の意義や役割を理解させる指導法の工夫』～小学校6学年社会科「わたしたちの願いを実現する政治」の学習を通して～
	山元町立山下第二小学校	針 生 武 宏	『身近な生活での税に関心をもち、税の大切さを考えることのできる児童の育成』～総合的な学習の時間「山元町の未来を考える」の学習を通して～
平成25	名取市立増田小学校	佐 藤 真 一	『税に対する興味・関心を高めさせる指導の工夫』 ～自ら調べ、主体的に税を考える学習を通して～
	岩沼市立岩沼西小学校	管 野 千 里	『税金の役割と必要性を理解できる児童を育成するための指導の工夫』～小学校6学年社会科「わたしたちの願いを実現する政治」の学習を通して～
	亶理町立高屋小学校	小 松 晃	『税金の大切さを考えることのできる児童の育成』 ～総合的な学習の時間「人権福祉」学習-だれもが幸せに生きる町づくりを通して～
	山元町立山下中学校	太 田 侑 吾	『租税への興味・関心を深化させる指導の工夫』 ～山元町の復興に関する取り組みを通して～

租税教育実践発表一覧(平成26年度～平成30年度)

年 度	学 校 名	担 当 教 諭 名	テ ー マ 名
平成26	名取市立不二が丘小学校	清 野 秀 和	「租税への関心を高めるための指導の工夫」 ～第6学年 総合的な学習の時間「税金について考えよう」の学習を通して～
	岩沼市立岩沼西中学校	阿 部 幸 子	「租税への関心を高め意義や役割を理解させる指導法の工夫」 ～租税教室や身近な資料の活用を通して～
	亶理町立亶理小学校	酒 井 久美子	「町民の願いを実現するために税金が果たす役割を理解させる指導の工夫」 ～「総合的な学習の時間」と6学年社会科「わたしたちの願いを実現する政治」の学習との関わりを通して～
	山元町立坂元中学校	渡 邊 淳 一	「将来の納税者としての意識を育む税金学習」
平成27	名取市立関上中学校	荒 川 美 貴	「積極的納税者を育むための指導の工夫」 ～税の使い道についての学習や租税教室の活用を通して～
	岩沼市立岩沼南小学校	丸 谷 由 浩	「未来の望ましい納税者を育てる指導の実践」 ～税金に対する正しい知識を身に付け、正しく納めようとする態度を養う指導を通して～
	亶理町立吉田中学校	妹 尾 文 男	「納税者意識を高める指導の工夫」 ～生徒の疑問を大切に授業づくりと税について考える機会を増やす実践から～
	山元町立坂元小学校	佐 竹 聡 子	「税金の役割を理解し、税金の必要性を感じられる児童の育成」 ～「坂元の復興と税金とのかかわり」を考える学習を通して～
平成28	名取市立下増田小学校	手 塚 英 海	「税に対する知識を深め、健全な納税者を育てる指導の実践」 ～主体的に課題を設定し、探求する学習を通して～
	岩沼市立岩沼中学校	武 田 裕 光	「地方自治の学習を通して租税の意義と役割を理解させる指導の工夫」
	亶理町立長瀨小学校	武 田 清 美	「税に対する興味・関心を高め、税の意義や役割を理解しようとする児童の育成」 ～税について児童自ら課題をもち、調べる活動を展開する学習から～
	山元町立山下第二小学校	渡 部 史 郎	「未来の納税者を育てる指導の一試み」 ～児童の「税」への興味・関心を生かした調べ学習を通して～
平成29	名取市立関上小学校	菅 原 さとみ	「第6学年社会科学習として行う租税教育のあり方一考察」
	岩沼市立岩沼小学校	三 澤 恵	「税の意義や役割を理解し、政治参加に対する意欲を高める指導の工夫」 ～税金の使い道について考えさせる活動を通して～
	亶理町立荒浜中学校	小 鴨 幸 生	「租税への関心を高めるための指導法の工夫」 ～学び合いを取り入れた指導を通して～
	山元町立山下小学校	森 大 地	「税に対する興味・関心を高め、税への理解を深める指導の工夫」 ～主体的に課題を設定し、自ら調べる活動を通して～
平成30	名取市立第一中学校	榊 田 修	「租税教室や資料を用いた指導の工夫」
	岩沼市立玉浦中学校	川 又 大 輝	「歴史的分野における租税教育の可能性」 ～近代革命期と現在の税制度の比較を通して～
	亶理町立荒浜小学校	高 橋 洋 彰	「税への興味・関心を高め、正しい知識と納税意識をもった子どもの育成」 ～児童自らが課題をもち、調べる活動を通して～
	山元町立山下第一小学校	名 取 富 江	「児童が税に対する興味・関心をもつための指導の工夫」 ～総合的な学習の時間「税金ってなんだ」の学習を通して～

租税教育実践発表一覧(令和元年度～)

※ 令和2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により中止

年 度	学 校 名	担 当 教 諭 名	テ ー マ 名
令和元	名取市立高館小学校	大 槻 裕 史	「税に対する興味・関心を高め、税の意義や役割への理解を深める指導の工夫」 ～社会科の学習として行う租税教育の実践を通して～
	岩沼市立玉浦小学校	村 田 志 乃	「児童が税を身近に感じ、税に関する興味・関心を持つための工夫」 ～課題設定の工夫と学び合いの学習を通して～
	亶理町立逢隈中学校	都 澤 智 洋	「税を通して、支えられている社会を実感させるための授業実践の工夫」 ～震災前、震災直後、現在の亶理町の収入を比較させることを通して～ ～亶理町立逢隈中学校の校内研究実践を通して～
	山元町立山下中学校	風 間 啓 太	「租税を正しく理解し、主体的に考えることができる生徒の育成」 ～租税教室体験を通して～
令和3	名取市立増田西小学校	齋 藤 幸 恵	「将来積極的に社会に参画していく納税者を育む指導の工夫」 ～段階的に継続して育むカリキュラムを通して～
	岩沼市立岩沼北中学校	古 川 明 子	「租税の意義や役割を正しく理解し、納税者として社会や国の在り方などを主体的に考えることができる生徒の育成」 ～身近な地域の調べ学習を通して～
	亶理町立逢隈小学校	鈴 木 康 史	「児童が税に関する興味・関心を高めるための指導の工夫」 ～児童自らが課題を設定し、調べる活動を通して～
	山元町立坂元小学校	鈴 木 晋 也	「租税についての関心を高め、税金の必要性を実感する児童の育成」 ～税に関する身近な問いについて調べ、解決する学習を通して～

令和3年度 仙台南地区租税教育推進協議会 役員名簿

役 職	構 成 機 関	名 等	氏 名
会 長	山 元 町 教 育 委 員 会	教 育 長	菊 池 卓 郎
副 会 長	公益社団法人仙台南法人会	会 長	佐 藤 和 也
	仙 台 南 税 務 署	副 署 長	安ヶ平 亘
常 任 幹 事	仙 台 南 税 務 署	総 務 課 長	藤 田 貴 之
幹 事	宮 城 県 仙 台 教 育 事 務 所	所 長	大 沼 博
	亘 理 町 教 育 委 員 会	教 育 総 務 課 長	太 田 貴 史
	山 元 町 教 育 委 員 会	教 育 総 務 課 長	大 和 田 紀 子
	名 取 市 校 長 会 会 長	増 田 小 学 校 長	佐 々 木 博 明
	岩 沼 市 校 長 会 会 長	岩 沼 北 中 学 校 長	及 川 浩 市
	亘 理 町 校 長 会 会 長	荒 浜 小 学 校 長	上 原 徹
	山 元 町 校 長 会 会 長	山 元 中 学 校 長	小 野 祐 介
	仙 台 南 税 務 署 管 内 会 青 色 申 告 会 連 合 会	会 長	猪 股 弘 志
	仙 台 南 間 税 会	会 長	齋 藤 邦 男
	宮 城 県 仙 台 南 県 税 事 務 所	所 長	及 川 一 芳
	山 元 町	税 務 課 長	大 橋 邦 夫
会 計 監 事	東 北 税 理 士 会 仙 台 南 支 部	支 部 長	加 藤 靖 仁
	仙 台 南 小 売 酒 販 組 合	理 事 長	藤 原 仁 昭

顧 問	名 取 市	市 長	山 田 司 郎
	岩 沼 市	市 長	菊 地 啓 夫
	亘 理 町	町 長	山 田 周 伸
	山 元 町	町 長	齋 藤 俊 夫
	仙 台 南 税 務 署	署 長	北 村 善 広

令和4年3月発行

発行者 仙台南地区租税教育推進協議会

事務局：仙台市太白区柳生2丁目28番2号（仙台南税務署内）
（022）306－8001 内線305